



令和4（2022）年度

スポーツ庁・UNIVAS委託事業

「大学のスポーツ資源を活用した地域支援事業」

成果報告書

青山学院大学

令和5年1月

これからの社会を担う新たなスポーツ指導者育成システム開発

I 要約	3
II 序章一なぜ本委託事業を行うのか	4
III 事業の進め方	7
IV 各事業の成果について	
1. 地域社会貢献イベント事業	9
2. 指導者育成研修関連事業	
(1) 「信頼されるスポーツ指導者」研修シリーズVol.1 導入講座	28
(2) オンラインシンポジウム「これからのスポーツ指導者に求められるものとは」	42
3. 広報事業	50



I 要約

- ・ 本委託事業は、大学のスポーツ資源を「有機複合的に活用」し、「自治体等の地域の組織・団体とも十分に連携・協力」し、「地域の課題を解決する取組をモデル的に実施、事業の検証分析を実施」し、「その成果の全国への横展開」を目的とするものである。
- ・ 青山学院大学は、将来のライフスタイルを決定する時期である子どもの「スポーツ離れ」、それに関連する「スポーツ指導者の量的・質的不足」、大きな教育的意義を有する運動部活動の「地域移行推進」を課題として取り上げ、この課題を解決する一つの方策としてこれからの社会を担う「信頼されるスポーツ指導者」の育成開発システムを実施することとした。
- ・ 計画では、スポーツを通じてその後の社会で役に立つような指導ができるとともに、スポーツによる場づくり・コミュニティづくりができる「スポーツ指導者」に付加価値を与えるようなキャリアパス開発のため、研修事業の実施とその事業モデル開発と地域社会貢献イベント事業を実施することとした。
- ・ 当初の計画では研修修了者を部活指導員として実際に地域に派遣する予定だったが、部活の地域移行計画の実施期間に変更があったことにより、大幅な計画の変更を余儀なくされ、地域社会貢献イベント事業の質・量を深め、スポーツを通じた場づくりや、指導の実地研修の知見を集める等、研修内容の検討をより深めることとした。
- ・ 地域社会貢献イベントは「教室・研修」を述べ41回、サッカー、ラグビー、その他のさまざまなスポーツの体験イベントを計7回実施し、多くの参加者から好評を得るとともに、指導者として参加したコーチ、大学生にとって多くの学びを得ることができた。
- ・ 現地、オンライン各21名が参加した「信頼されるスポーツ指導者」導入講座では、95%のアンケート回答者から満足したとの回答が得られた。
- ・ オンラインシンポジウム「これからのスポーツ指導者に求められるものとは」を実施し、部活の地域移行においては地域の実情を反映した体制を作ることが必要であること、しかしながら、一方でこれからのスポーツ指導者に求められる能力や考え方については共通のものがあることが示され、これらの知見を今後の研修開発およびパッケージ化に生かしていくこととした。

II 序章

II-1 なぜ本委託事業を行うのかー地域の課題

- 本委託事業は、**大学のスポーツ資源を「有機複合的に活用」し、「自治体等の地域の組織・団体とも十分に連携・協力」し、「地域の課題を解決する取組をモデル的に実施、事業の検証分析を実施」し、「その成果の全国への横展開」を目的とするものである。**
- 実施に当たり、取り上げる地域の課題として以下を考えた。

課題1. こどものスポーツ離れ・二極化=まったく参加しない者の増加

課題2. スポーツ指導者の質的・量的不足：スポーツ指導者の能力不足によるケガの増大、スポーツを嫌いになる者の増加、指導者が見つからぬための廃止となる運動部の増加

課題3. 運動部活の地域移行：上記2の解決のために令和5年度から徐々に実施予定であるが、それを担う人材の確保が課題

II-2 なぜ本委託事業を行うのかー要件：組織・実績

- 本学は令和2年度のスポーツ庁「大学のスポーツ資源を活用した地域活性化拠点形成・大学スポーツアドミニストレーター配置支援事業」において、スポーツを通じて人々が楽しく参加できる場づくりを行う人々の育成をすることを目的とした「**スポーツを通じた健康増進・まちづくりを先導する専門家育成プログラム**」（略称CASプログラム）を開発し、これを事業化するため学外のスポーツ団体や企業とともに「**青山学院大学スポーツ健康イノベーションコンソーシアム**」を設立している。
- 渋谷区では2021年度に部活の地域移行を実践する**一般社団法人渋谷ユナイテッドを設立**し、全国に先駆け部活の地域移行を目指しており、この事業を今後どのように進めるかが課題となっている
- 以上のように、大学周辺地域の課題とそれを解決するための実績、組織が揃っているために本委託事業への参加が適切と考えた。



II-3 なぜ本委託事業を行うのかー大学の理念と使命

AOYAMA SPORTS VISION

(1) 「AOYAMA Academic Athletes (AAA)」の育成

青山学院大学は、高い水準の知力・体力・精神力・競技力を併せ持ち、学問の場におけるスポーツ実践の意味や価値を自覚する「AOYAMA Academic Athletes (AAA)」を育成し、社会に貢献できるリーダーの輩出を目指す。その実現のために、文武両面のサポート体制の整備、スポーツ施設の拡充、デュアルキャリア教育などの施策によって体育会及び競技スポーツを強化する。

(2) スポーツマインドの涵養～生涯スポーツの起点～

青山学院大学は、学生の日常的なスポーツライフの創出によりスポーツマインドを育み、健康で豊かな暮らしに連なる「生涯スポーツ」の起点となることを目指す。その実現のために、スポーツ・健康関連の正課教育の充実、スポーツ関連施設の整備、スポーツイベントの機会提供、スポーツ系サークルの援助、スポーツ関連のボランティア活動の促進などの多面的な施策を通じてアプローチする。

(3) 地域貢献・国際貢献～サーバント・リーダーの輩出～

青山学院大学は、スポーツを通じて、リーダーシップ、スポーツマニシップ、ボランティア精神、ホスピタリティーなどの多様な能力に優れ、国際感覚、語学力を備えた有為な人材を育成し、青山学院の目指す「サーバント・リーダー」の輩出により、地域社会、国際社会に対する有形無形の貢献に寄与する。スポーツの持つ力により言語や文化を超え、国際相互理解の向上及び友好と親善を深めることで地球規模の視野を養い、青山学院のスクール・モットーである「地の塩、世の光」として、地域にも世界にも貢献する人材を育成する。

Q.なぜ青山学院大学がこのような事業を実施するのですか

青山学院大学はスポーツ系の学部を持たない大学です。だからこそ、既存の枠組みに捉われない新たなスポーツ指導者像を描けると考えました。さまざまなバックグラウンドを持つ教職員が行政や産業界と連携し、これから社会に必要な、信頼できる、多機能なスポーツ指導者を育成します。青山学院のスクール・モットーである「地の塩、世の光」を体現する「サーバント・リーダー」としての資質を有するスポーツ指導者が、スポーツを通じて、からの社会を支えると信じているからです。

Q. 具体的にはどのようなスポーツ指導者を育成しようとしているのですか

一般的にサーバントリーダーシップとは「リーダーはまず相手に奉仕し、その後相手を導くもの」という考えです。そこでは指導者と教えられるものの間の信頼関係が重要になります。信頼されるためには、相手に納得してもらうためのコミュニケーション能力や論理的な考え方が必要です。

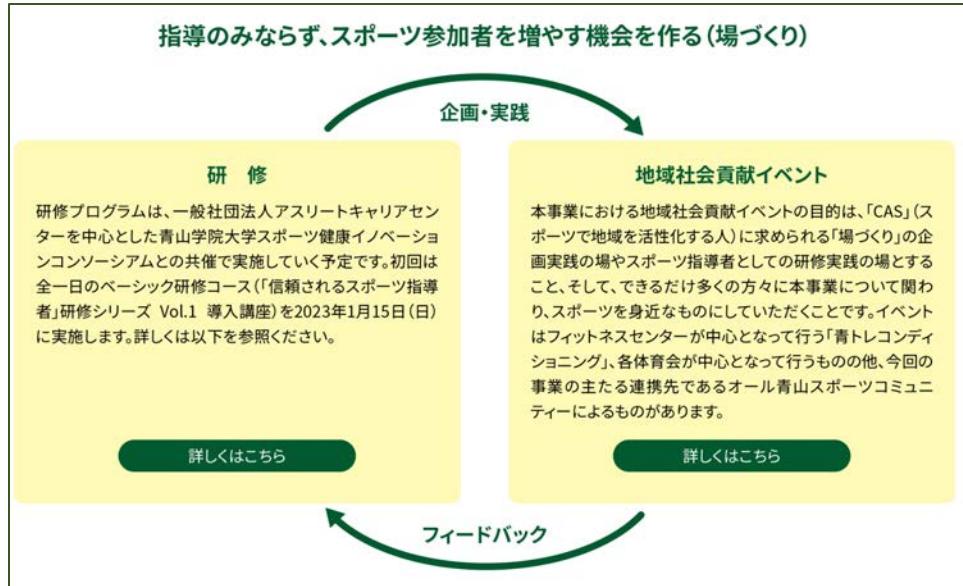
III 事業の進め方

III-1 事業の全体像・組織



- ・先に挙げた3つの課題を同時に解決するためには、こどもたちが将来にわたってスポーツ好きになるよう、また、スポーツを通じてその後の社会で役に立つような指導ができる人材が必要
- ・また、「スポーツ指導者」に付加価値を与えるようなキャリアパスの開発（＝スポーツによる場づくり・コミュニティ活性化人材）
- ・モデル研修事業の他、「今後のスポーツ指導者の在り方」に関するシンポジウムを実施し、社会のニーズに対応する研修事業を開発
- ・全国展開のモデルとなるような研修パッケージ化
- ・大学体育会各部会と設置学校間スポーツ連携事業会（オール青山スポーツコミュニティ）を中心とした学内組織、スポーツ庁委託事業で設立した「スポーツ健康イノベーションコンソーシアム、さらに、渋谷区、相模原市が連携した組織

III-2 なぜ本委託事業を行うのかー大学の理念と使命



Q.なぜ青山学院大学がこのような事業を実施するのですか

青山学院大学はスポーツ系の学部を持たない大学です。だからこそ、既存の枠組みに捉われない新たなスポーツ指導者像を描けると考えました。さまざまなバックグラウンドを持つ教職員が行政や産業界と連携し、これから社会に必要な、信頼できる、多機能なスポーツ指導者を育成します。青山学院のスクール・モットーである「地の塩、世の光」を体現する「サーバント・リーダー」としての資質を有するスポーツ指導者が、スポーツを通じて、からの社会を支えると信じているからです。

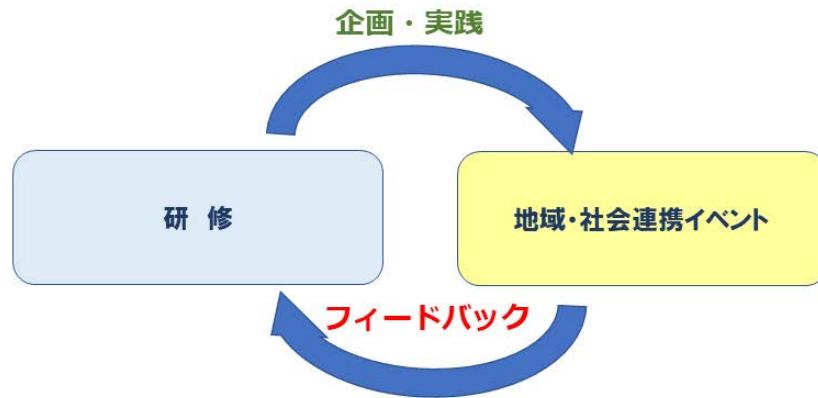
Q.具体的にはどのようなスポーツ指導者を育成しようとしているのですか

一般的にサーバントリーダーシップとは「リーダーはまず相手に奉仕し、その後相手を導くもの」という考え方です。そこでは指導者と教えられるものの間の信頼関係が重要になります。信頼されるためには、相手に納得してもらうためのコミュニケーション能力や論理的な考え方が必要です。

IV-1 地域社会貢献イベント事業

オール青山スポーツコミュニティ推進プロジェクト

指導のみならず、スポーツ参加者を増やす機会を作る（場づくり）



事業目的と方法

- ・ スポーツで地域を活性化する人材である「CAS」事業達成のための両輪として「研修」とともに「地域・社会連携イベント」が位置づけられる
- ・ 「研修」で培った知識、技術を実践の場である「地域・社会連携イベント」で確認、挑戦し更に指導者としての経験を積み、スキルを向上させる機能を持つ
- ・ スポーツ指導者に「場づくり」企画者という付加価値を与える
- ・ 本事業では、主催する事業に『幅広い年齢層』で『幅広い技術レベル』の参加者を募り、『経験豊富で独創的発想を持つ』指導者が関わることにより多様な「場づくり」に対応する

オール青山スポーツコミュニティの実績

本事業は、期間中に定期的に実施する教室・研修形式と単発的に実施する体験形式に大別される。本年度は、2022年9月から2023年1月まで、下記のような事業を実施した。

【教室・研修形式】

- ・「グラスルーツサッカー スキルアップクラス」 毎週月曜日 19:00～20:30 会場：高中部グラウンド
(年齢性別不問で、サッカーの技術向上を目的として受講する参加者と指導者研修を同時開催。全15回実施。)
- ・「なでしこひろばin青山学院（フットサル）」 毎週火曜日 19:00～20:30 会場：短大体育館
(女性のスポーツ参加機会創出を目的に女性指導者によりフットサルを実施。経験・年齢不問にて開催。全15回実施。)
- ・「オール青山少年少女ゴールキーパー教室・指導者研修」隔週土曜日 19:00～20:30会場：高中部グラウンド
(特殊な技能を要し希少なポジションであるゴールキーパーに特化した教室。教室内で指導者研修も実践。全7回実施。)
- ・「グローバルスポーツコミュニティ フェス」 每月第3月曜日 15:00～16:30 会場：大学記念館体育館
(本学及び近隣の協定校の留学生およびチューターを対象として実施。各国語会話可能な指導者を招聘。全4回実施。)

【体験形式】

- ・「相模原市サッカー協会サポート事業 少女トレセン活動」9月25日(日)14:00～16:30 会場：大学緑が丘グラウンド
(女子サッカー普及に向け、体育会サッカー部の協力のもと相模原市境界のサポート事業を実施。)
- ・「FIFAワールドカップ開催記念 オール青山サッカーフェス」12月18日(日)12:00～16:00 会場：高中部グラウンド
(各行事の参加者に呼びかけ日頃の技を発揮する大会形式で開催。当日及び大会準備の運営を実践経験する場ともなった。)
- ・「ウォーキングフットボール体験」 12月27日（火）14:00～16:00 会場：高中部グラウンド
(老若男女、障がいのある方もインクルーシブに楽しめる種目。幅広い年齢層の方々が参加し一緒にプレー。)
- ・「グラスルーツサッカー データ分析体験イベント」2023年1月16日（月）19:00～20:30 会場：高中部グラウンド
(毎週月曜日開催の教室参加者対象に「データ分析イベント」と称して、GPSデバイスを用いたプレー分析体験を提供。)
- ・「オール青山キッズ・スポーツチャレンジ」 2023年1月16日（月）10:00～13:00 会場：大学記念館体育館
(小学生対象で11種目のスポーツ種目を体験した。パラスポーツ部門からはボッチャも紹介。大学生も積極的に児童と交流。)



○活動

相模原市サッカー協会が主催する女子サッカー普及活動の一環である、小学生女子サッカーの強化活動に会場提供と運営・指導サポートをする事業となる。トレセン活動を行う小学生14名と協会派遣指導者3名に対して、体育会サッカー部所属大学生5名が会場準備から誘導、指導補助のサポートを実施した。

○目的及び成果と課題

活動に参加した小学生及び保護者の方々からは「会場の広さ」、「施設の充実ぶり」、「指導学生の活動ぶり」など高い評価の声があった。継続的に市協会の活動サポートを実施するためには、会場確保と部員の協力体制の充実が課題となる。日常の活動が地域住民、関係機関の協力によることを認識し、感謝の意をどう表し応えるかという体制作りが肝要であろう。

「なでしこひろばin青山学院（フットサル）」 毎週火曜日 19:00～20:30 会場：短大体育館



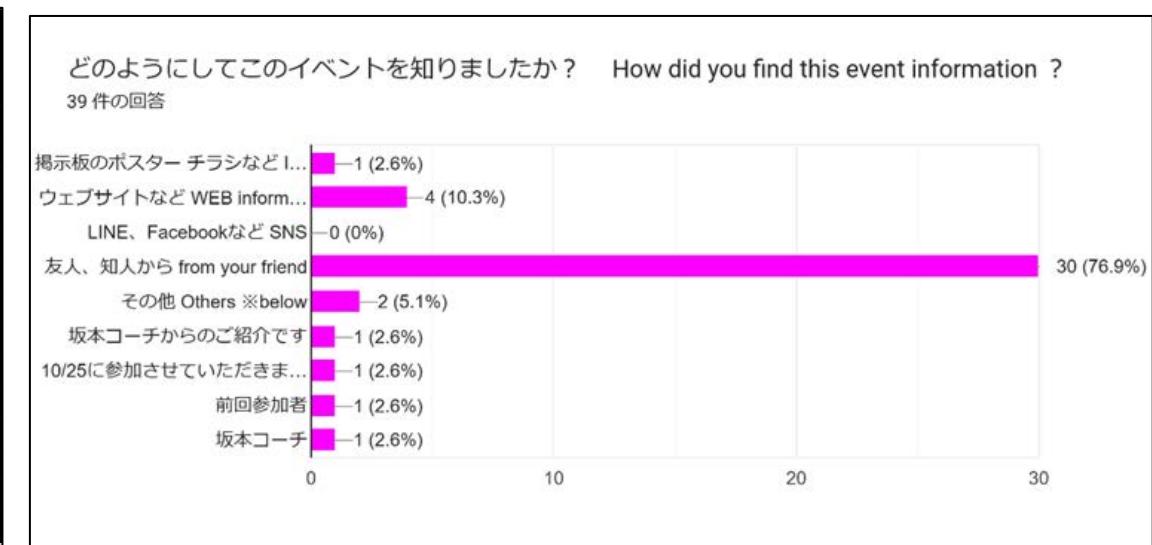
○活動

女性スポーツの普及（機会提供）、子育て世代、高齢者のスポーツ参加による健康維持・体力増進を目的として開催した事業には、学院関係者、近隣の一般参加者が加わりフットサルを楽しんだ。継続期間中には、その絆が広がり仕事帰りの主婦、親子、教職員フットサル部、OGの仲間、小学校の友達同士と参加者が増えていった。

○目的及び成果と課題

今後継続を望む声も多数寄せられ時間帯、会場は継続しながらの「**子育て世代**」対象事業と、**高齢者及び小中学生対象**としたより早い時間帯での開催とコミュニティ内の周知を実践しながら、より多くの女性がスポーツに気軽に参画する機会を創出することが課題となる。

なでしこ	実施日	参加者										
		事前申込	総数	初参加	リピーター	男	女	学内	学外	小中高	大学生	一般
1	2022年10月4日	1	3	3		1	2	2	1	0	0	3
2	2022年10月11日	2	2	0	2	1	1					
3	2022年10月18日	1	0	2		1	1	1	1	0	0	2
4	2022年10月25日	5	6	3	3	2	4	0	6	1	0	5
5	2022年11月8日	9	14	6	8	4	10	6	8	2	2	10
6	2022年11月15日	10	11	1	10	1	10	4	7	2	3	6
7	2022年11月22日	7	9	1	8	1	8	1	8	2	0	6
8	2022年11月29日	4	6	2	4	3	3	2	4	1	2	3
9	2022年12月6日	4	3	0	3	0	3	0	3	0	0	3
10	2022年12月13日	8	16	2	14	8	8	6	10	2	1	13
11	2022年12月20日	8	6	0	6	1	5	0	6	1	0	5
12	2023年1月10日	5	9	0	9	2	7	1	8	2	0	7
13	2023年1月17日	7	5	0	5	1	4	0	5	0	0	5
14	2023年1月24日	5	2	0	2	1	1	0	2	1	0	1
15	2023年1月31日	5	13	3	10	5	8	2	11	4	0	9
		80	106	21	86	32	75	25	80	18	8	78



「グラスルーツサッカー スキルアップクラス」 毎週月曜日 19:00~20:30 会場:青山学院高中部グラウンド

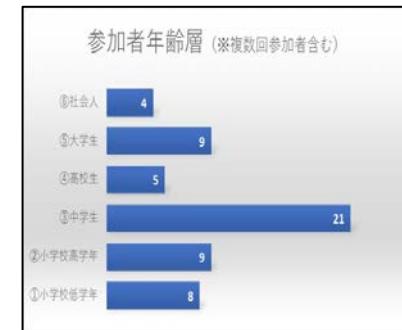
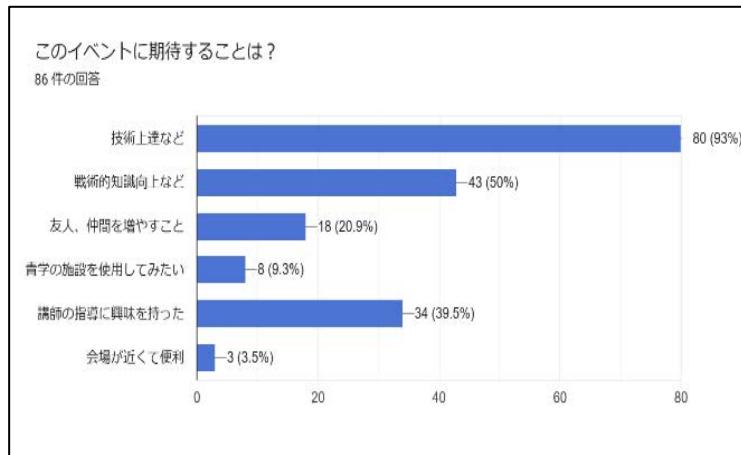
	グラスルーツ 実施日	参加者										
		事前申込	総数	初参加	リピーター	男	女	学内	学外	小中高	大学生	一般
1	2022年10月3日		0									
2	2022年10月10日		0									
3	2022年10月17日	3	7	7		7	0	0	7	6	0	1
4	2022年10月24日	8	9	6	3	9	0	2	7	7	0	2
5	2022年11月7日	18	17	10	7	17	0	1	16	16	0	1
6	2022年11月14日	21	20	13	7	19	1	1	19	17	3	0
7	2022年11月21日	15	29	27	2	28	1	1	28	24	4	1
8	2022年11月28日	10	10	0	10	9	1	1	9	7	2	1
9	2022年12月5日	7	4	0	4	4	0	1	3	2	0	2
10	2022年12月12日	9	8	1	7	7	1	2	6	6	1	1
11	2022年12月19日	8	8	0	8	7	1	2	6	7	0	1
12	2023年1月9日	1	4	2	2	4	0	0	4	3	0	1
13	2023年1月16日 データ分析イベント	15	19	8	11	16	3	3	16	14	3	2
14	2023年1月23日	13	18	4	14	14	4	3	15	16	0	2
15	2023年1月30日	13	13	3	10	10	3	0	13	11	0	2
		141	166	81	85	151	15	17	149	136	13	17

○活動

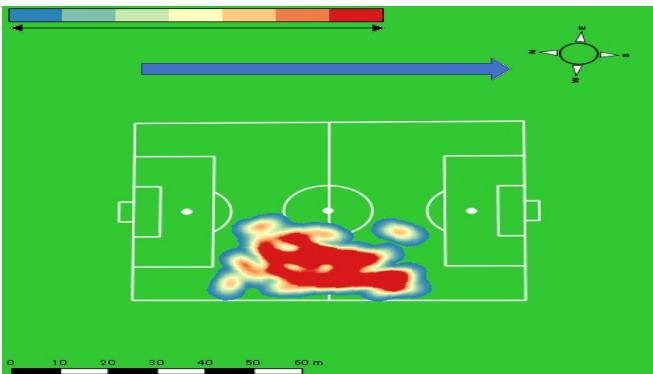
「草の根」を意味するグラスルーツを冠し、幅広い年代で男女ともにサッカーの技術向上、仲間との活動を楽しんだ。プログラムに興味を持ち、技術向上を目的として所属するクラブの活動に生かすべく熱心な取り組みを重ねた。指導に興味を持つ大学生、一般参加者も多く訪れた。

○目的及び成果と課題

技術向上に特化した教室形式の事業として、継続するべく今後の周知とスペシャルイベント（データ分析体験）などを加えながら、参加者の向上意欲を継続的に刺激する企画を検討する必要があろう。



「グラスルーツサッカー データ分析体験イベント」 2023年1月16日（月）19:00～20:30 会場：青山学院高中部グラウンド

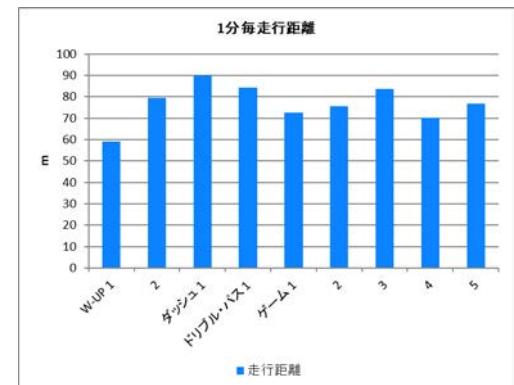
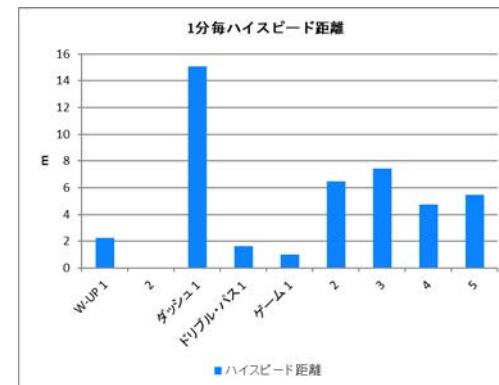


○活動

グラスルーツサッカーの活動内で、GPSデバイスを利用した参加者のプレーデータ分析企画をスペシャルイベントとして実施した。国内、欧米のプロサッカーリーグはもちろん大学でもITテクノロジーを応用した試合分析、選手のプレーデータフィードバック、トレーニング負荷の調整などが一般化している。教育人間科学部田村達也氏も協力のもと資料のようなデータ提供を実施した。参加者には小中学生が多いことからも、学術的な視点から客観的に自信を振り返る習慣は有用となろう。

○目的及び成果と課題

今後は、分析担当の大学生あるいは教員の対応と共に、協賛企業の協力も欠かせない事業となる。参加者のメリットを考慮し事業の継続を前向きに継続していきたいイベントのひとつである。



ゲーム												
デバイスID	選手名	計測時間	走行距離(m)	ハイスピード距離(m)	%HIR	スプリント回数	スプリント距離(m)	平均速度(km/h)	今回最高速度(km/h)	高強度エフオート	加速回数	減速回数
01	Y.M.	0時間49分35秒	1,822.36	32.12	1.76%	0	0.00	2.20	17.35	213	17	28
02	R.O.	0時間49分35秒	3,898.53	343.64	8.81%	0	0.00	4.72	19.24	240	32	41
03	R.Y.	0時間49分35秒	3,018.87	434.60	14.40%	0	0.00	3.65	22.15	327	45	57
04	T.S.	0時間49分35秒	5,095.30	626.07	12.29%	2	40.11	6.17	22.46	174	17	39



「オール青山少年少女ゴールキーパー教室・指導者研修」隔週土曜日 19:00~20:30会場：高中部グラウンド

オール青山 SPORTS JOURNALIST

スポーツガ「感動する大学スポーツ総合支援事業」委託事業
青山学院大学 スポーツ健康ノベーションソーシャム事業
「少年少女ゴールキーパー教室」「ゴールキーパー指導者養成研修」
(東京都内中高生指導対象、シニア及び大学生指導者研修対象)

主催・企画
スポーツガ「感動する大学スポーツ総合支援事業」委託事業
青山学院大学 スポーツ健康ノベーションソーシャム事業
指導者養成・実践実習会員会（オール青山スポーツコミュニティプロジェクト）

講師：澤村公康 氏（GKアカデミー・コーリースキーム代表）

Griffie school
(GKアカデミー)
1993年 フィラデルフィア・セントラル・カレッジGKコーチ
1995年 フィラデルフィア・セントラル・カレッジGKコーチ
1996年 フィラデルフィア・セントラル・カレッジGKコーチ
1997年-1998年 フィラデルフィア・セントラル・カレッジGKコーチ
2001年-2002年 フィラデルフィア・セントラル・カレッジGKコーチ
2008年-2011年 川崎FC GKコーチ・青山学院大学GKコーチ
2012年-2013年 日本GKアカデミーGKコーチ
2013年-2014年 ロッカーズ熊谷GKコーチ（現JFL熊谷FC GKコーチ）
2015年-2016年 ワンツーワンGKコーチ（現JFL熊谷FC GKコーチ）

日程：第4回 11月19日 土曜日 19:00~20:30 (18:30集合・雨天決行)
第5回 12月10日 土曜日 ※19:00~20:30 (18:30集合・雨天決行)
第6回 12月24日 土曜日 ※19:00~20:30 (18:30集合・雨天決行)
※12月開催教室は、時間変更の可能性があります。公式サイトよりご確認ください。

会場：青山学院大学 高中部グラウンド（人工芝・ナイタ・照明あり）
東京都渋谷区渋谷4-4-25
青山学院大学
正面玄関にて記載の地図へご迷路ください。
ロードマップまで直進、右側の方の奥で左折
を通り裏手に面する建物を右側に左方側に
進むとグラウンドに到着。

募集対象：指導対象：東京都内所属チーム
の中高生ゴールキーパー対象
指導研修対象：大学生、シニア
のゴールキーパーコーチ対象

活動内容
ゴールキーパーの魅力を伝え,
基本的な技術から心構えを実践的的に指導します。
少年少女のゴールキーパーを育成することとも、指導者仲間を増やし育てます。
留意事項：
・前日までに体調が崩れていいた、当日の発熱等体調がすぐれない場合は参加をご遠慮下さい。
・会場に入れる際には検温を取ります。運動会以外は、マスク着用をお願いします。
・グラウンド上のマクマットにて、運動会で大きな座面にて若狭大會場にて集合して下さい。
・イヤホンでの音楽等の音楽再生に関してはなはだ迷惑なみが知らしますが、音楽鑑賞等は各自で入耳願います。
連絡担当：大平洋研究室 03-3469-1470 部長・青山山人（オール青山スポーツコミュニティプロジェクト）

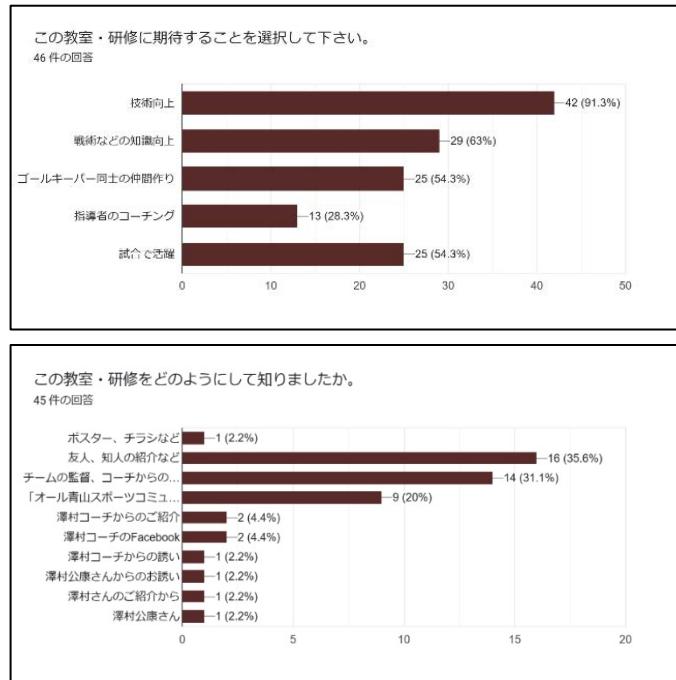
申し込みはこちらから
オール青山スポーツコミュニティ

参加無料！

QRコード

この教室・研修に期待することを選択して下さい。
46件の回答

技術向上 42 (91.3%)
戦術などの知識向上 29 (63%)
ゴールキーパー同士の仲間作り 25 (54.3%)
指導者のコーチング 13 (28.3%)
試合で活躍 25 (54.3%)



○活動

サッカーでは11名の出場選手のうち、たった1名の出場枠しかないゴールキーパー（GK）というポジション。プレー特徴も「足でボールを扱う」というルールに加え唯一「手でボールを扱う」ことが出来る。その特殊性がサッカーにおける孤高のコミュニティを形成する要因となっている。隔週開催の本事業には、毎回GK仲間が共通の課題を抱えて共に学び、活動するために高いモチベーションで参加している。

○目的及び成果と課題

教室としての機能と指導者研修としての機能を併用するため、年齢性別を問わず垣根を無くした実施が特長となる。互いの技術レベル、体力、体格等を慮りある時は「支え、教え」、また「支えられ、学ぶ」ことが参加者の気づきを多く促していた。しかし、そのような特長を活動の支障とならないように運用するメインの指導者の存在が不可欠なプログラムであることも十分に理解し今後の活動に臨むことが課題となる。

「グローバルスポーツコミュニティ・フェス」

毎月第3月曜日 15:00~16:30 会場：大学記念館体育館



○活動

コロナ禍を経て、外国人留学生が入国を始める9月を契機に新たな環境下で生活を始める学生たちの絆を深め、健康体力の増進を目的として期間中毎月実施した。

○目的及び成果と課題

継続的に実施するなかで、外国人留学生の関係に加え日本人チユーター、他専攻の留学生、他大学の留学生へとスポーツを通した交流が広がることが今後の課題としてあげられる。そのためにも、定期的かつ継続的に事業を実施すること、参加しやすい曜日、時間帯の検討などが懸案となる。



グローバル	参加者											
	実施日	事前申込	総数	初参加	リビーター	男	女	韓国	中国	モンゴル	タイ	欧米
2022年10月17日	22	12	12	8	8	4	4	2	2	1	1	3
2022年11月21日	18	12	4	8	9	3	1	2	1			8
2022年12月19日	22	17	9	8	11	6	4	3	2	4	2	2
2023年1月23日	6	14	4	10	13	1	1	1	1	2	2	9

「FIFAワールドカップ開催記念 オール青山サッカーフェス」 12月18日(日)12:00～16:00 会場：青山学院高中部グラウンド

「FIFAワールドカップ開催記念 オール青山サッカーフェス」

12月18日(日) 12:00～16:00 会場：青山学院高中部グラウンド

開催：青山学院大学CAS地域連携パート実施委員会（オール青山スポーツコミュニティプロジェクト）

開会式 12:00
予選リーグ 12:30～14:00
順位決定戦 14:15～15:45
閉会式 16:30

会場：青山学院高中部グラウンド
東京都渋谷区渋谷4-23
青山キャンパス内
※正確にご案内いただけない場合があります。ロータリーまで
お越しいただく場合は、右側の看板を参考に右側の道を右側へ
お進みください。会場はグラウンドに到着。

募集対象：近隣地域及び学院関係者のチーム及び個人エントリーが可能です。
定員に達し次第締め切りとなります。参加受付完了した方にはご連絡致します。

活動内容：
8人制サッカーで、10分ゲームにて予選リーグを実施。その後、順位決定リーグを実施。
11人制サッカー一般部のルールに基づき実施。チーム分けビス、レフェリー（主審1名制）
は、主催者が準備。

注意事項：
当日までに体調が崩れています。当日の発熱等体調がすぐれない場合は参加をご遠慮下さい。
・会場に入る前に体温を測ります。体温以外は、マスク着用をお願いします。
・グラウンド前の更衣室にて、通常のできる限りに着替えを場に会合して下さい。
・イベント中の飲食等に際してはご注意をお控えくださいが、低体温等は各自で加入願います。

連絡担当：大学体育研究室 03-3409-1470 総務人財開発部 田村オール青山スポーツコミュニティ・プロジェクト



○活動

参加5チーム、参加者総勢58名のサッカーファミリーが一同に会し3時間を超えるリーグ戦を実施した。

○目的及び成果と課題

各事業にて研鑽を積んだ成果を発揮するという趣旨、チームとして活動することにより繋がりを深め、さらにリーグ戦を通して多くのコミュニティと繋がりを広める。頻繁に

「大会形式」の事業を開催することで、各事業への参加動機が向上するを次のステップにする、大会への協賛募集等で参加者の大会認知を高めるなどの課題があった。



所属	人数		
中学生・外部	1	1	
高校生・内部	1	1	
大学生・外部	10		
大学生・内部	5	大学	
留学生	8	23	
教職員	10		
OB	12	一般	
外部	2	24	

「ウォーキングフットボール体験」 12月27日（火）14:00～16:00 会場：青山学院高中部グラウンド

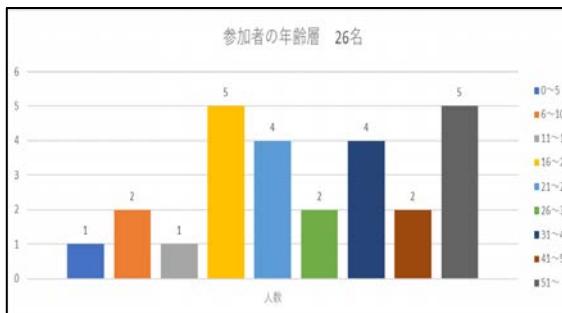
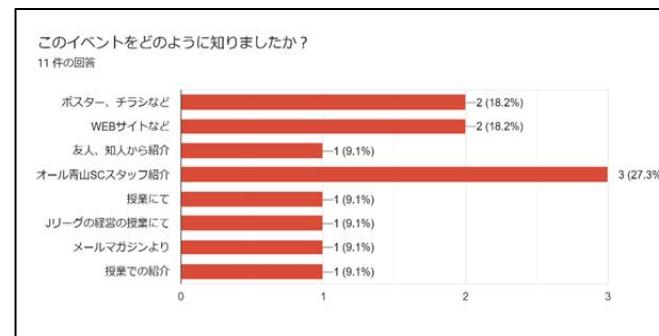
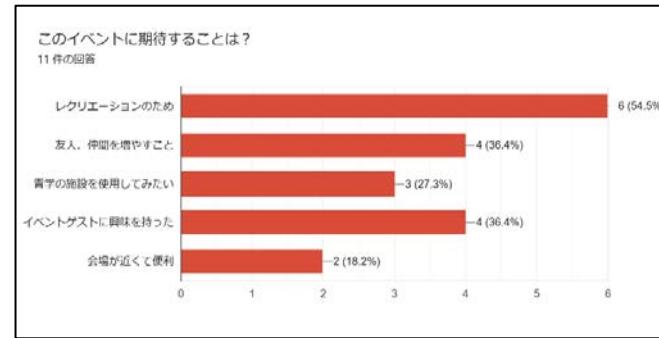
「ウォーキングフットボール体験会」
 開催地：青山学院高中部グラウンド
 開催日：12月27日（火）14:00～16:00
 開催時間：13:30 受付開始
 14:00 オープニング
 14:15～15:30 ウォーキングフットボール体験
 15:45 クロージング

会場：青山学院 高中部グラウンド
 東京都渋谷区渋谷4-4-25
 青山キャンパス内
 *正面にて、応援の声援、入場券を入手します。ロッカリーまで
 お越しいただく場合は、会場内を歩きながら荷物を手に持つ場合は、
 お力に負わぬようグラウンドに直接お越しください。

募集対象：近隣地域及び学院関係者の親子参加を募集。ファミリーで楽しめます。
 定員に達し次第終め切りとなります。参加費を完了した方にはご連絡致します。

活動内容：
 老若男女、みんなと一緒に
 サッカーの楽しさを
 体験できる、そんな生きるスポーツ
 「ウォーキングフットボール」
 この機会にぜひ体験しましょう！

注意事項：
 1. 会場にて説明が行われていた。当日の会場説明がすぐれない場合は会場にて説明下さい。
 2. 会場に入る前に体温を測ります。運動会には、マスク着用をお願いします。
 3. グラウンドの更衣室にて、運動のできる服装に着替えお手洗い場に集合して下さい。
 4. イベント中の怪我等に関しては会場にて応急処置の対応いたします。
 参加申込についてお問い合わせに対して主催者にて街頭説明に加入致します。
 連絡担当：大谷 裕里子 03-3409-1470 青山学院大学CAS連携部 田村オール青山スポーツコミュニティ・プロジェクト



○活動

「歩いてサッカーをする」この競技は、**年齢、性別、技術、障がいの有無にかかわらず一緒にプレーし、サッカーの楽しさを体感できる**。ゲストとしてJリーグ柏レイソルの戸嶋祥郎選手、MCにはFIFA公認日本代表応援隊長「つんさん」こと角田寛和氏を迎えた。また、ウォーキングフットボールチームの老舗「アルクオーレ」のレディースの皆さん、元デフサッカー（聴覚障がい）日本代表候補で現在

「ウォーキングフットボールin the サイレンス」の日比秀則氏が参戦した。運営には、大会主催経験のあるWEリーグノジマステラ神奈川相模原の古薗雄士氏の協力頂いた。ウォーミングアップの後、3チームにわかれリーグ戦を実施した。資料の通り、**老若男女が一緒にプレーし、みんなでサッカーの楽しさに触れ「チームになった」と実感する体験**であった。

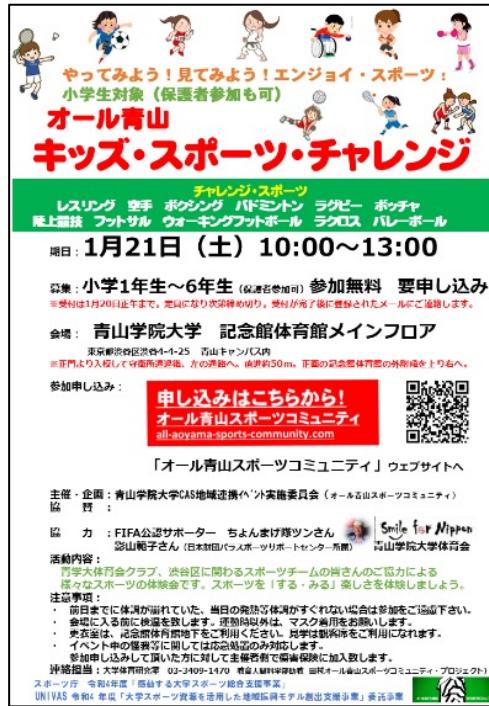
○目的及び成果と課題

親子、大学の友人、留学生の仲間、障がいを持つ方と様々な参加者が集い「互いの良さを認め、サポートする気配り」を持ってプレーすることによりインクルーシブなコミュニティ形成を理解する。

「歩く」、「蹴る」などの動作を通して**健康的にスポーツ実践**が実施される。試合を通してのコミュニケーション促進により、参加者同士の絆が深まった。

競技の目的、ルールを理解・実践するためには、指導者、MC、デモンスト레이ター（Jリーグ選手、ウォーキングフットボールチーム選手ほか）が、模範となりプレーすることが必要となろう。終了後には、多くの参加者からこの企画への満足感を耳にすることが出来た。したがって、「まず参加してみる」といった競技への理解と認知を促進する周知への工夫が求められる。

「オール青山キッズ・スポーツチャレンジ」 2023年1月16日（月）10:00～13:00 会場：大学記念館体育館



○活動

若年層のスポーツ参加機会の創出、子育て世代、高齢者層の健康維持・体力増進を目的とした開催となった「第1回小学生対象オール青山キッズスポーツチャレンジ」は、募集期間が短いなか100名を超える応募者があり、保護者、未就学児含めて多くの参加者がスポーツの楽しさを体験する機会となった。参加者全員でダンス体操の後。チャレンジ11種目のデモンストレーション、15分ずつのチャレンジ体験を5セッション実施した。青学大体育会クラブと各競技団体の全面協力を得て充実した指導が実践された。

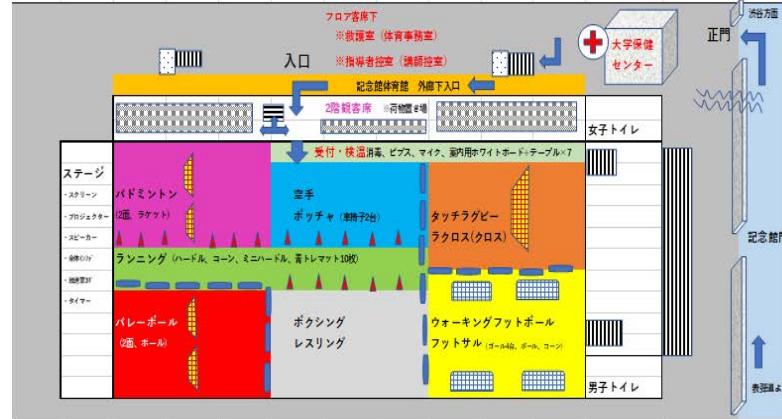
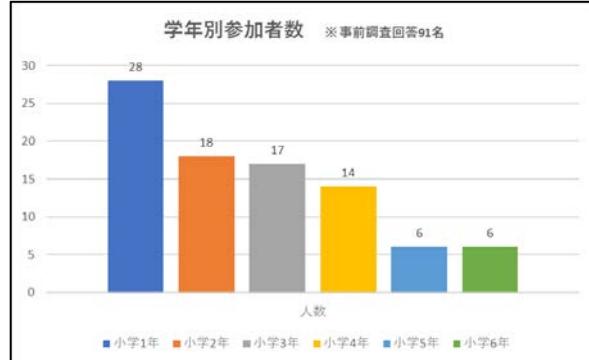
○目的及び成果と課題

フィードバックアンケートからも伺える通り、事業内容の評価は相対的に高く「継続」、「種目増加」、「参加団体選手への好感」など事業の発展性が望まれていた。さらに興味を抱いたスポーツの「定期的な参加希望」は、身近な選手、指導者と活動を共にできる教室形式の事業展開へ示唆を与える意見である。

参加者の多いイベントでは、より詳細な案内の事前準備、当日運営の的確な配置等が必要である。参加各団体への依頼、保護者のボランティア募集なども有用である。

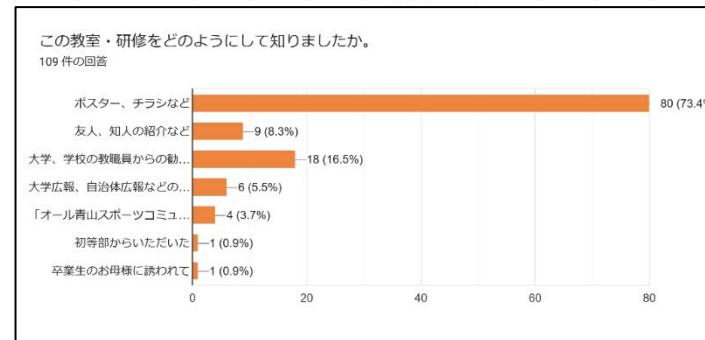
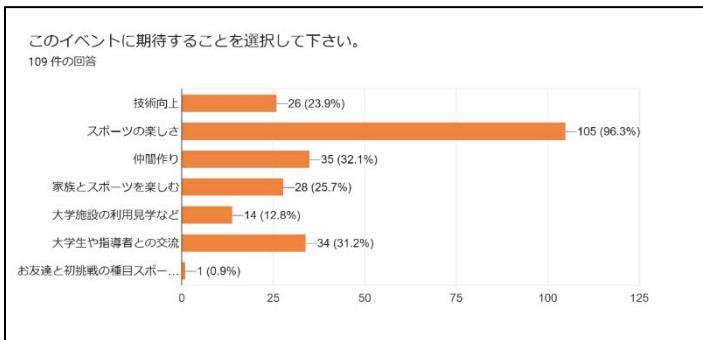


「オール青山キッズ・スポーツチャレンジ」 2023年1月16日（月）10:00～13:00 会場：大学記念館体育館



	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
レスリング	X	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
オフリー	X	X	○	○	○	○	○	○	○	○	○
11:00 第1セッション	X	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
11:20 第2セッション	○	X	○	○	○	○	○	○	○	○	○
11:40 第3セッション	X	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
12:00 第4セッション	○	○	X	○	○	○	○	○	○	○	○
12:20 第5セッション	X	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
申込者数	16名	26名	3名	65名	42名	36名	45名	62名	18名	20名	20名
定員	15名	15名	10名	15名	20名						

※記入は複数でのので、各選択肢の合計数にござります。
※各セッションごとに記入して下さい。チケットあるいは「イグ」等を記入して下さい。
※各セッションごとに記入して下さい。チケットあるいは「イグ」等を記入して下さい。
※各セッションごとに記入して下さい。チケットあるいは「イグ」等を記入して下さい。



「オール青山キッズ・スポーツチャレンジ」アンケート

開催後のWEBアンケート回答35件 【事業成果と評価できる意見を抽出】

- ・ボクシングの篠原光選手とお父様、その他部員の方々もみなさん小さい子相手に丁寧に楽しく指導してくださいました。そのほか、どの種目も皆さん短い時間の中で工夫してスポーツの楽しさを味わえるメニューを考えて下さっていました。
- ・どのスポーツでもセッション内で楽しさを体感できる仕掛けや声掛けをしていただきありがとうございました。息子は特にバレーボールのお姉さん（きはらさん）に優しくしてもらえたのが嬉しかったようです。名前も貼ってくれていたので名前も覚えられてよかったです
- ・青山学院らしく初等部から大学までやれるラグビーは、やはり人気なので今回のように挑戦できると嬉しいです。皆さん褒め上手で、子供のヤル気を出させてくれ、自信を持たせてくれ、ありがたい限りでした！特に急遽参加した空手では、並んでいたボクシング部のお兄さんに「ボクシングも遊びに来てね」と声かけられたのが嬉しかったり、バレーボールのお姉さんも一緒に空手やれた！と楽しそうでした。ボッチャの方のデモンストレーション時の説明や、子供を惹きつける感じ（やってみたい人～じょんけんで勝った人どうぞ）もお見事でした。
- ・イベント後に、地下のボクシング場を見学させて下さったボクシング部の皆様にも感謝致します。練習開始前の貴重なお時間を小学生達に割いて下さり、また保護者にとっても楽しい経験となりました。ありがとうございました。
- ・限られた時間で多くのことを体験できるようにしてくださり、ありがとうございました。事前連絡が前日でしたが、何度も連絡いただいたおかげで、実施がわかりやすかったです。お忙しい中助かりました。ちょんまげ侍さんのMCも楽しく、わかりやすかったです！
- ・時間が長いかなと思っていましたが、子供も楽しみあつという間の3時間でした。申し込みがグーグルフォームで、簡単で助かりました。
- ・素晴らしかったです。長すぎず短すぎず。案内はやや急でしたが、前もって聞いていても出れなくなったりするので我が家はこれくらいのライトさが良いです。体育会の皆様のご協力ありがとうございました。ぜひお礼をお伝えいただきたいと思います。またパリオリンピックや全日本を目指す選手にもお会いできたのもよかったです。テレビ等で拝見するのが楽しみになりました
- ・侍姿の司会の方の進行、お声掛けが素晴らしかったです。実はちょっとやってみたいと思いながらも躊躇していた保護者（自分）も、積極的なお声掛けのお陰で、勇気を出して参加することができました！
- ・普段の習い事では、これほど多くの競技に触れる事はできないので、子供の興味関心の引き出しを多く持つ良き契機となりました。
- ・バレーボール部のお姉さんたちが印象的だった。また会いたいと子どもたちが言っていた
- ・今回参加できなかつた競技にも参加してみたい
- ・このまま毎年開催して頂けたら、とてもありがとうございます。
- ・ぜひ定期的にお願いしたいです。興味をもったスポーツとの関わりが続けられると嬉しいです ※定期開催を望む意見が、他13件

「オール青山キッズ・スポーツチャレンジ」アンケート

開催後のWEBアンケート回答35件 【課題提示の意見を抽出】

- ・開催概要が少しわかりにくかったです。また、楽しいイベントではあったのですが、お昼の時間をまたいでおり、事前に何か案内があると(会場内の飲食などについて)よかったです。
- ・お友達と参加を希望していたため、参加希望種目などのアンケートの回答には擦り合わせる時間も必要なのでもう少し早めのご案内だと助かります。
- ・もう少し長い時間やりたかったので、冒頭の説明を短くして欲しかった
- ・下の兄弟が遊べる場所やボールだけでもあると助かります。
- ・数も限られ、運営者の方々もとても大変だったと思います。準備片付け等、人手がいると思いますので、私達保護者もお手伝いできることがあればやりますので、募集などかけてくださったらやらせて頂きます。
- ・青学の小学生の参加者が多かったと思うが、近所の子も申込んで良いと書いてあったので、参加した。しかし、青学の小学生と違って、場所が分からぬので、正門に「体育館はこちら。」というプラカードを示したり、体育館内ではトイレや2階への階段の案内があると良かった。とても良いイベントなので、青学の小学生だけでなく、近所の小学生へも是非、もっと周知していただきたい。
- ・1セクション15分はあっという間に感じたので、20分程度あるとちょうど良いかなと思いました。前日まで持ち物に関する案内が前日までにあるとありがたいです。（動きやすい服装、水筒、汗拭きタオル、室内履きは不要、自動販売機は近くにありなど）
- ・小学生はスタンプラリーやシール、参加証みたいのが大好きなので、参加した証のミニカードや賞状があると、もっと意欲的になるとと思います。
- ・チアやダンスなど女子も楽しめるスポーツがあつたら参加したかったようです。
- ・サッカーは、晴れていれば外を走れると尚盛り上がると思いました。
- ・野球に挑戦したいです。また、未就学児も参加できるものが何かあれば嬉しいです。
- ・暖かい季節に行い、長距離走や短距離など、外でやってもいいかなと思いました。また、せっかくなので、ボッチャ等の普段なかなか体験できない、パラスポーツ（車いすバスケやシッティングバレー等）の体験会とかもしてみたいなと思いました。
- ・もっと頻繁に行ってほしい、いろんなスポーツを体験したいです。
- ・パラスポーツをこれからもご紹介くださると嬉しいです。
- ・デモンストレーション競技を絞って時間を有意義に使う工夫をすればなお良いと思います。
- ・種目の数は今回はちょうど良いかなと思いましたが、時間が少々短かったため、やりたい種目をすべては体験できませんでした。もし来年度以降も同様のイベントがあるようでしたら、選手・コーチの皆様にはご負担かと存じますが、午前の部、午後の部で2部制にする等、より多くの種目を体験する機会があるとよりうれしいです。
- ・とっても素晴らしいイベントなので来年からはとても混み合いそう。今回は例外で未就学児も体験させていただけたのですが、来年は可能なかぎりたいです。できれば、下の子も連れて一緒に楽しめるのであります。
- ・また春にお願いします。ラグビーやサッカー、陸上など、グラウンドを使用してのスポーツの体験もぜひお願いします

中学生ラグビースクール交流大会の開催目的と概要

目的

多くの中学生ラグビーチームは芝のグラウンドを利用できる頻度が少ないことから、人工芝の専用ラグビー場を開放し、思う存分ゲームを楽しんでもらうことを第一の目的とした。また、参加した中学生ラガーマン、その指導者、保護者に対し、青山学院大学ラグビー部の活動について認識してもらい、今後の地域連携につなげていくことを第二の目的とした。



概要

ラグビー部が普段練習場として利用している緑が丘グラウンドに、近隣の中学生ラグビーチームを招待し、交流大会を開催した。1日程につき、3つのチームを招待し、それぞれU14（中学2年生）とU13（中学1年生）の試合を総当たり戦で行うこととした。なお、年末、年度末の開催予定であったため、U15（中学3年生）の参加は予定しなかった。

日程は、青山学院大学ラグビー部の活動のない日を候補とし、12月25日（日）と1月22日（日）とした。グラウンドの準備については、参加する3チームの指導者に協力してもらい行った。試合をラグビー場で行うため、ウォーミングアップ用として隣接するサッカー場、アメフト場の利用について、それぞれサッカー部、アメリカンフットボール部とも調整を行った。

当日のプログラムは、試合開始前に開会式を行い、交流大会の主旨、ラグビー部の活動について説明する場を用意した。全試合終了後にはアフターマッチファンクションを実施し、3チームそれぞれの健闘を称えあう場を用意した。

第一回中学生ラグビースクール実施報告

- 参加チームは招待した横須賀市ラグビースクール、川崎市ラグビースクール、そして本郷中学校ラグビー部（近隣のラグビースクールで声を掛けたが、予定が合わず、本郷中学校が参加することになった）の3チーム
- 9時から各チームのウォーミングアップが始まり、11時に開会式が行われた。開会式では、青山学院大学ラグビー部の部長と監督が挨拶を行い、地域貢献としての交流大会の主旨、そしてラグビー部の今後の活動について説明を行った。
- 11時30分より、U14（中学2年生）が3試合、U13（中学1年生）が3試合、計6試合が行われた（以下の表を参照）。本郷中学では各学年で選手が十分に揃っていたが、横須賀市ラグビースクールと川崎市ラグビースクールでは、人数が十分でなく、6試合目となるU13の試合は、横須賀市ラグビースクールと川崎市ラグビースクールは合同チームとして試合を行った（そのまま同じチームで第7試合も行った）。どの試合でも、数名は女の子も混じっており、中学生カテゴリーらしさがうかがわれた。
- 午後は隣接するサッカー場ならびにアメフト場の利用も可能となり、試合に出場していない選手も、常に人工芝のグラウンドを利用して練習する環境が得られた。
- 全試合終了後は、3チーム合同でアフターマッチファンクションが行われ、握手も交わしながら互いの健闘を称えあった。

第一回12月25日開催（相模原市緑が丘G）

試合順	開始時刻～終了時刻	試合時間	（カテゴリ）	チーム名	vs	チーム名	Ref ※敬称略
1	11:30 ～ 12:05	0:35	U14	本郷中		川崎市RS	横須賀
2	12:10 ～ 12:25	0:15	U13	本郷中		横須賀市RS	川崎
3	12:30 ～ 12:45	0:15	U13	本郷中		川崎市RS	横須賀
4	12:50 ～ 13:05	0:15	U13	横須賀市		川崎市RS	川崎
5	13:10 ～ 13:45	0:35	U14	本郷中		横須賀市RS	横須賀
6	13:50 ～ 14:05	0:15	U13	本郷中		川崎市RS	川崎
7	14:10 ～ 14:25	0:15	U13	本郷中		横須賀市RS	横須賀
8	14:30 ～ 15:05	0:35	U14	横須賀市		川崎市RS	前半:横須賀 後半:川崎



第二回中学生ラグビースクール実施報告

- 参加チームは、田園ラグビースクール、世田谷ラグビースクール、そして前回も参加した川崎市ラグビースクールの3チームを招待したこの日のグラウンドの準備と後片付けについては、青山学院大学ラグビー部員によって行われた。
- 9時から各チームのウォーミングアップが始まり、10時に開会式が行われた。開会式では、青山学院大学ラグビー部の部長と監督のほか、ラグビー部の主将と主務を務める学生2名が挨拶を行った（この2名の学生はそれぞれ田園ラグビースクール、世田谷ラグビースクールの卒業生である）。
- 予定では5試合が行われる予定だったが（以下の表を参照）、田園ラグビースクールと川崎市ラグビースクールの人数が揃わなかつたこと、また最初の数試合でケガ人が出たこと（打撲といった軽症）から、第4試合が中止となった。行われた試合の中では、ここでも女の子が男の子に負けない活躍をしていた。
- 全試合終了後は、3チーム合同でアフターマッチファンクションが行われ、互いの健闘を称えあうとともに、春季大会、東関東大会での再会を約束した。

第二回1月22日開催（相模原市緑が丘G）

試合順	開始時刻～終了時刻	試合時間	(カテゴリ)	チーム名	vs	チーム名	Ref ※敬称略
1	10:45 ～ 11:19	0:34 15分H	U14	世田谷区RS		川崎市RS	田園
2	11:27 ～ 12:01	0:34 15分H	U13	世田谷区RS		田園RS	川崎
3	12:09 ～ 12:43	0:34 15分H	U14	川崎市RS		田園RS	世田谷
12:43 ～ 13:15		0:32	休憩※補食タイム				
4	13:15 ～ 13:49	0:34 15分H	U13	世田谷区RS		田園RS (※+川崎)	※当日調整
5	13:54 ～ 14:28	0:34 15分H	U14	世田谷区RS		田園RS	川崎



中学生ラグビースクール交流大会の今後の課題

中学生ラグビースクールとの交流は、青山学院大学ラグビー部員の出身と重なることが多く、互いに馴染みやすいということがわかった。一方で、ラグビースクールに参加している選手の人数も少なくなっている傾向が見られ、**ラグビー全体の競技人口をさらに増やしていく必要があることもわかった。**そのためにも、このような**交流会がより頻繁に行われるべきであり、また同時にアフターマッチファンクションなどで、参加すること自体の楽しさをより感じられるような工夫も求められるだろう。**

今後は、中学生カテゴリーだけでなく、小学生カテゴリー（幼児カテゴリー）にも広げて、交流会を企画していきたい。また、**チーム自体が成立しないという大きな課題を抱える高校生カテゴリーについても（人数の揃う高校がなく、試合なしで全国大会に進出する高校が決まる県もある）、大学のグラウンドを提供することで、高校の垣根を越えたチームの結成の後押しができる**と考えられ、これについても取り組んでいきたい。



概要

青山学院大学陸上部長距離原晋監督が指導するトレーニングと、フィットネスセンタートレーナーが青学アスリートに指導するコンディショニングを融合した青学オリジナルの運動メソッドである「青トレコンディショニング」の体験イベント。本学フィットネスセンターが主催し、2015年度から地域の子供たちを対象に行ってきた。コロナ禍中にはリモートイベントとしても実施してきたが、今年度は久々の対面イベントとして本事業期間中の計3回で延べ115名の参加者を集め好評を得た。



IV-2 指導者育成研修関連事業

「信頼されるスポーツ指導者」研修シリーズ Vol.1 導入講座

青山学院大学

青山学院大学が1月15日（日）に「信頼されるスポーツ指導者」研修シリーズ Vol. 1 導入講座」を実施

大学ニュース / イベント / 産官学連携 / スポーツ / 地域貢献

2023.01.12 15:00

いいね! 6 シェアする リツイート ブックマーク

青山学院大学はキャンパスがある渋谷区、相模原市及び関係団体*と連携し、大学スポーツによる地域課題解決の実証事業である「これから社会を担う新たなスポーツ指導者育成システム開発」プロジェクト（通称：CAS**プロジェクト）を開始した。このプロジェクトの一環として、1月15日（日）に同大相模原キャンパスにおいて一日間の「導入講座」を実施する。当日は渋谷区、相模原市関係者その他、部活動の地域移行に关心を持つ全国の自治体関係者からも参加が予定されている。また報道関係者向けの取材時間を設定している。

(*: 渋谷区と部活動地域移行を進める一般社団法人渋谷ユナイテッドも参画予定
**: CAS=Community Activator with Sports)

■名称
【青山学院大学 X 一般社団法人アスリートキャリアセンター CASプロジェクト】
「信頼されるスポーツ指導者」研修シリーズ Vol. 1 導入講座

■目的
現代に求められる「誰からも信頼される」スポーツ指導者になるための第一歩を踏み出すための「導入」コース。全一日間で、目指す指導者像を共有し、そうなるためには、どのような考え方、知識・能力が必要なのかを学ぶ。具体的には以下の3点。

(1) 心身の健やかな成長をサポートすること
(2) スポーツを通して社会で活躍できるような能力を身に付けさせること
(3) スポーツチームをマネジメントする能力とはどのようなものかを知ること

■主催 青山学院大学スポーツ健康イノベーションコンソーシアム
一般社団法人 アスリートキャリアセンター（共催）

■日時 2023年1月15日（日）9:30～15:00（予定）

■場所 青山学院大学相模原キャンパス B棟9階 ビューラウンジ
〒252-5258 神奈川県相模原市中央区淵野辺5-10-1

■参加費 無料



注：「クラブコーチ」は一般社団法人アスリートキャリアセンターが今後の事業で使用する名称案

- 2023年1月15日（日）青山学院大学相模原キャンパスにおいて青山学院大学と一般社団法人 アスリートキャリアセンターの共催で「信頼されるスポーツ指導者」研修シリーズ Vol.1 導入講座を実施した
- 目的は「誰からも信頼される」スポーツ指導者としての第一歩を踏み出すために以下の3点が重要であることを理解すること
 - (1) 心身の健やかな成長をサポートすること
 - (2) スポーツを通して社会で活躍できるような能力を身に着けさせること
 - (3) スポーツチームをマネジメントする能力とはどのようなものかを知ること
- 参加者は対面、オンラインそれぞれ21名、計42名であった

「信頼されるスポーツ指導者」研修シリーズ Vol.1 導入講座 実施概要（1）

【プログラム】

9：30 開会挨拶・趣旨説明（30分）

- ・稻積 宏誠（青山学院大学副学長）青山キャンパスよりオンライン
- ・佐藤 敏彦（青山学院大学大学院 社会情報学研究科 特任教授）

10：00 「現代に求められる指導者とは」（30分）

- ・原 晋（青山学院大学地球社会共生学部 教授／陸上競技部長距離ブロック 監督）

（10分休憩）

10：40 「チームマネジメント 成長する組織作りと実例」（60分）

- ・原 晋（同上）

（60分休憩）

12：40 「スポーツサイエンス（1）発達段階のからだを知る」（60分）

- ・星川 精豪（日本オリンピック委員会 強化委員（医・科学スタッフ）／青山学院大学社会情報学部 非常勤講師）

（10分休憩）

13：50 「スポーツサイエンス（2）準備運動メソッド」（60分）

- ・萩原 聖人（一般社団法人アスリートキャリアセンター／青山学院大学陸上競技部長距離ブロック トレーナー）

14：50 閉会挨拶（10分） 15：00 終了



佐藤敏彦特任教授 プロジェクト照会



稻積副学長 開会挨拶

研修会の開会にあたり、稻積宏誠副学長から青山学院大学がなぜ「信頼されるスポーツ指導者」の育成に取り組むのかについての説明を兼ねた挨拶を青山キャンパスよりオンラインで行った。

引き続き、プロジェクトマネージャである佐藤敏彦特任教授から、スポーツ庁・UNIVAS委託事業の全体のゴール、プロジェクト内容等の説明が行われた。



原 晋 教授 講義1 「現代に求められる指導者とは」

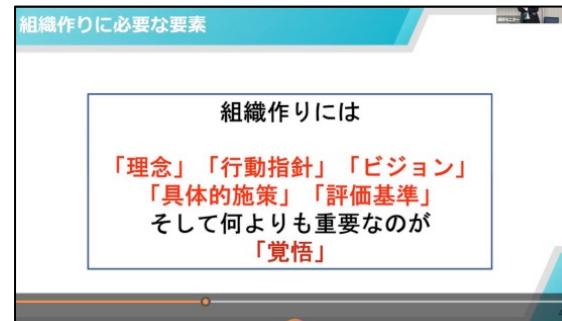
午前中の研修会の一コマ目は原 晋 地球社会共生学部教授・陸上競技部長距離ブロック監督により、「現代に求められる指導者」をテーマに講義が行われた。その中で

- ・指導者に求められるものは時代とともに変化すること
- ・スポーツ指導者は社会の良き一員であることが求められること
- ・個性が尊重され、多様な現代においては、画一的ではなく、地域の特性、情勢に合わせた指導者育成が必要であること
- ・但し、すべてに通じる普遍的な考え方を求められること
- ・これからは子どもたちを導く「リーダーシップ」とチームを経営管理する「マネジメント」が両輪で求められること

等が語られた



原 晋 教授 講義2 「成長する組織づくりと実例」

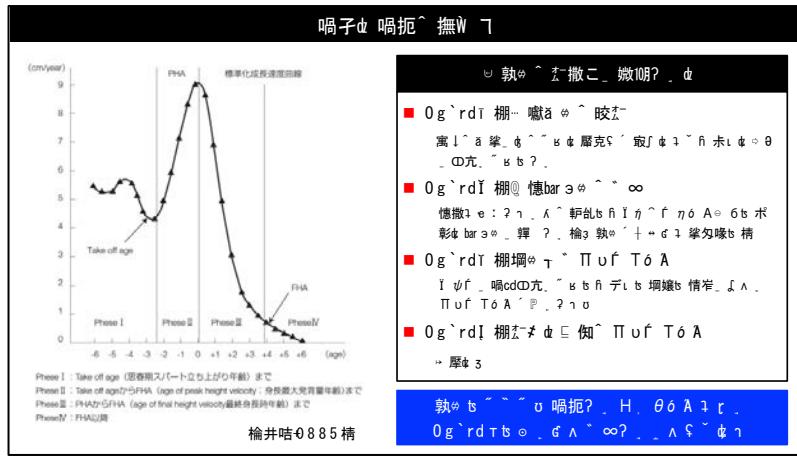


原教授の二コマ目は「成長する組織づくりと実例」をテーマに青山学院大学駅伝チームの成長の過程を例に挙げながら組織づくりに必要な事、プロセスをわかりやすく説明された。

「信頼されるスポーツ指導者」研修シリーズ Vol.1 導入講座 実施概要（3）

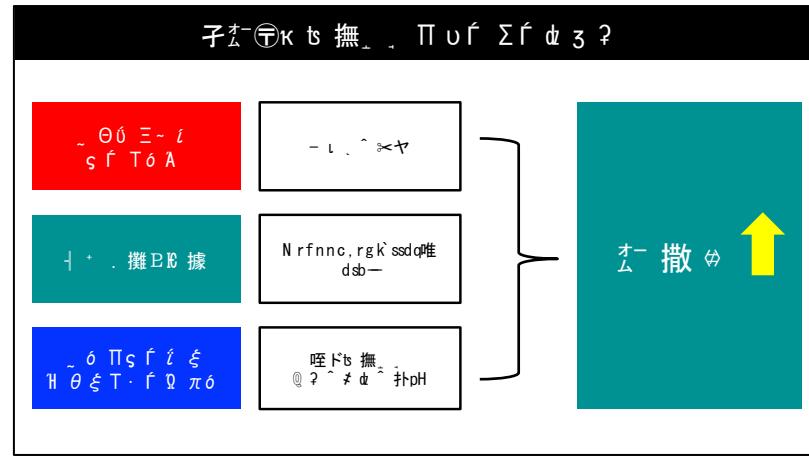


星川 精豪 非常勤講師 講義3「発達段階のからだを知る」



午後の研修会の一コマ目は星川精豪日本オリンピック委員会強化委員会・本学非常勤講師より「発達段階のからだを知る」をテーマに講義が行われた。その中で育成世代に関わるスポーツ指導者、トレーナーは個人差のある成長過程の中で、それぞれのこどもたちがその過程にあるかを見極めた上で正しいトレーニングを行う必要があること、

等が語られた



「信頼されるスポーツ指導者」研修シリーズ Vol.1 導入講座 実施概要（4）



午後の研修会の二コマ目は青山学院大学陸上競技部長距離ブロックトレーナーの萩原聖人氏より「ウォームアップの基礎理論」として、動的ストレッチの重要性について等の講義の後、駅伝チームが長年練習に取り入れている体幹トレーニング・ストレッチ法である「青トレ」の実技指導が行われた。また、実技指導の後には、今後実施予定の研修会プログラムや研修システムの説明があった。

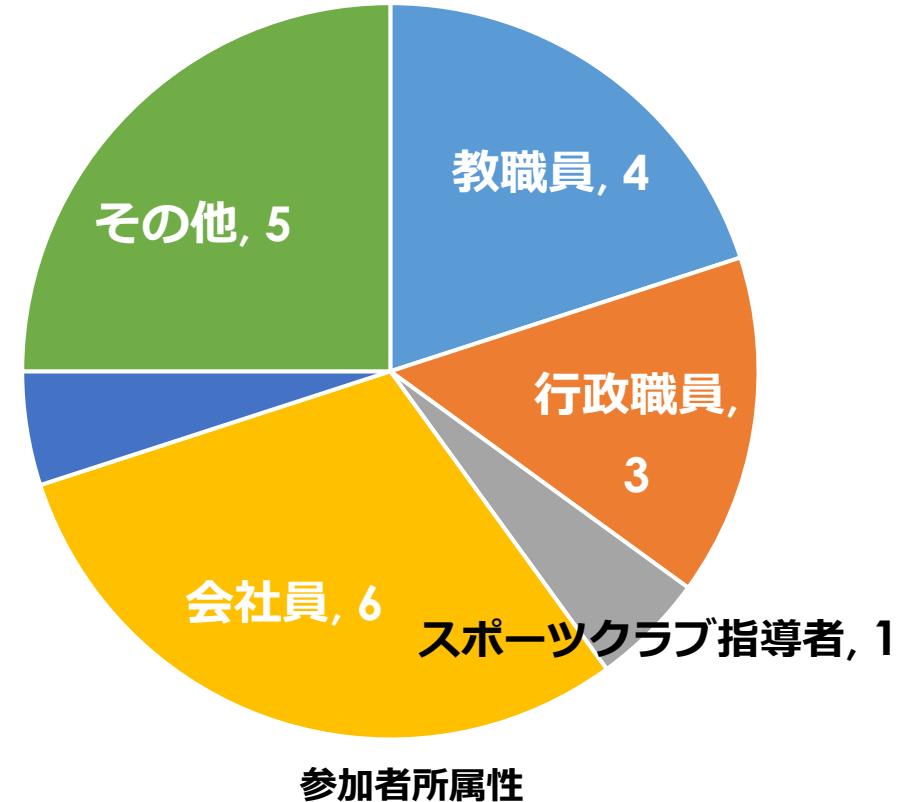
ストレッチの種類

静的ストレッチ	反動や弾みをつけずに筋肉をゆっくりと伸ばし、伸展した状態を維持するストレッチ
動的ストレッチ	反動をつけたり、動作の中でリズミカルに筋肉を伸長させるストレッチ
バリスティックストレッチ	筋を伸ばした状態（関節最終域）から、リズミカルに反動を利用したストレッチ
パートナーストレッチ	スタティックストレッチが主となる2人1組になって行うストレッチ
PNFストレッチ	固有受容性神経筋促通法（PNF）は筋の緊張を高めたり、活動させることで、筋を弛緩させるテクニック



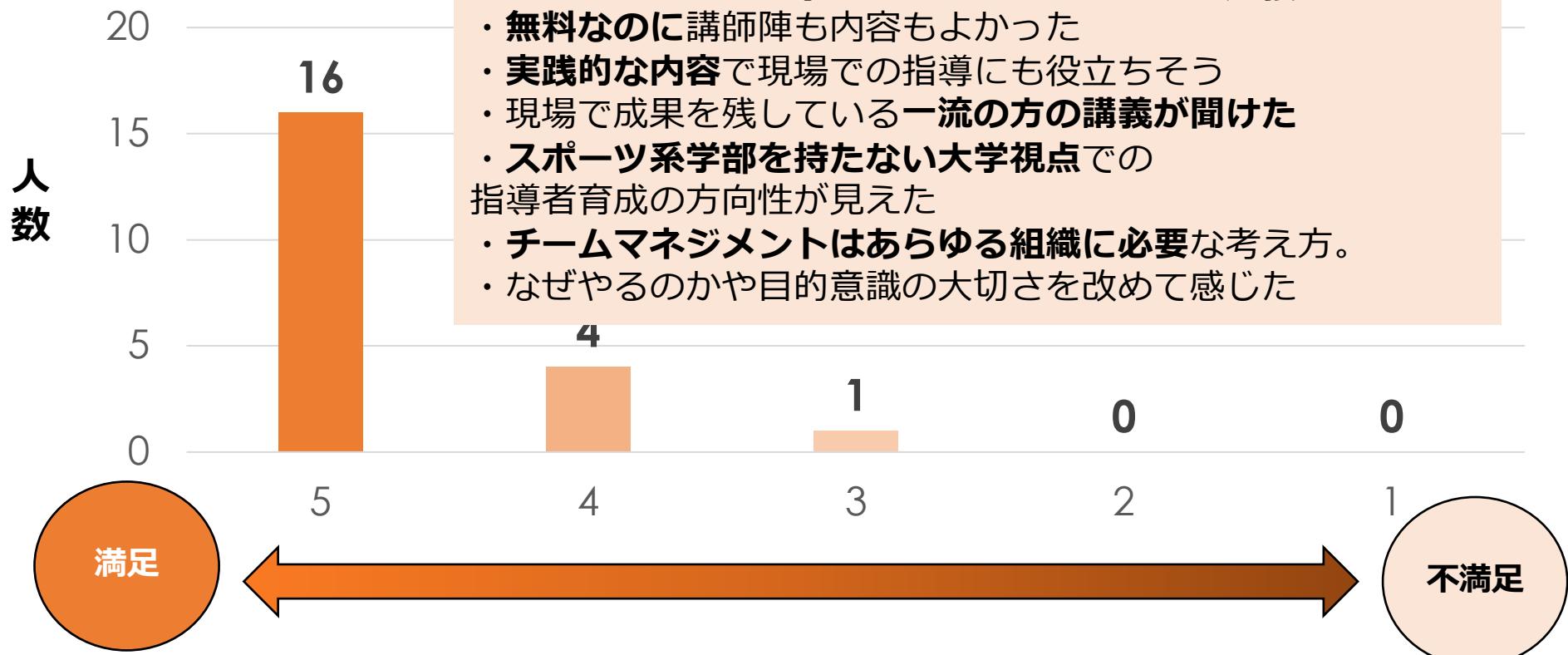
参加者所属先地域

市町村	現地	オンライン	計
相模原	10	1	11
渋谷	1	1	2
荻	2	1	3
小山	2	0	2
三原	1	3	4
調布	1	0	1
中央	1	0	1
八千代	1	0	1
宮代町	1	0	1
金沢	0	3	3
広島	0	2	2
総社	0	1	1
文京	0	1	1
大分	0	1	1
不明	1	5	6
総計	21	19	40

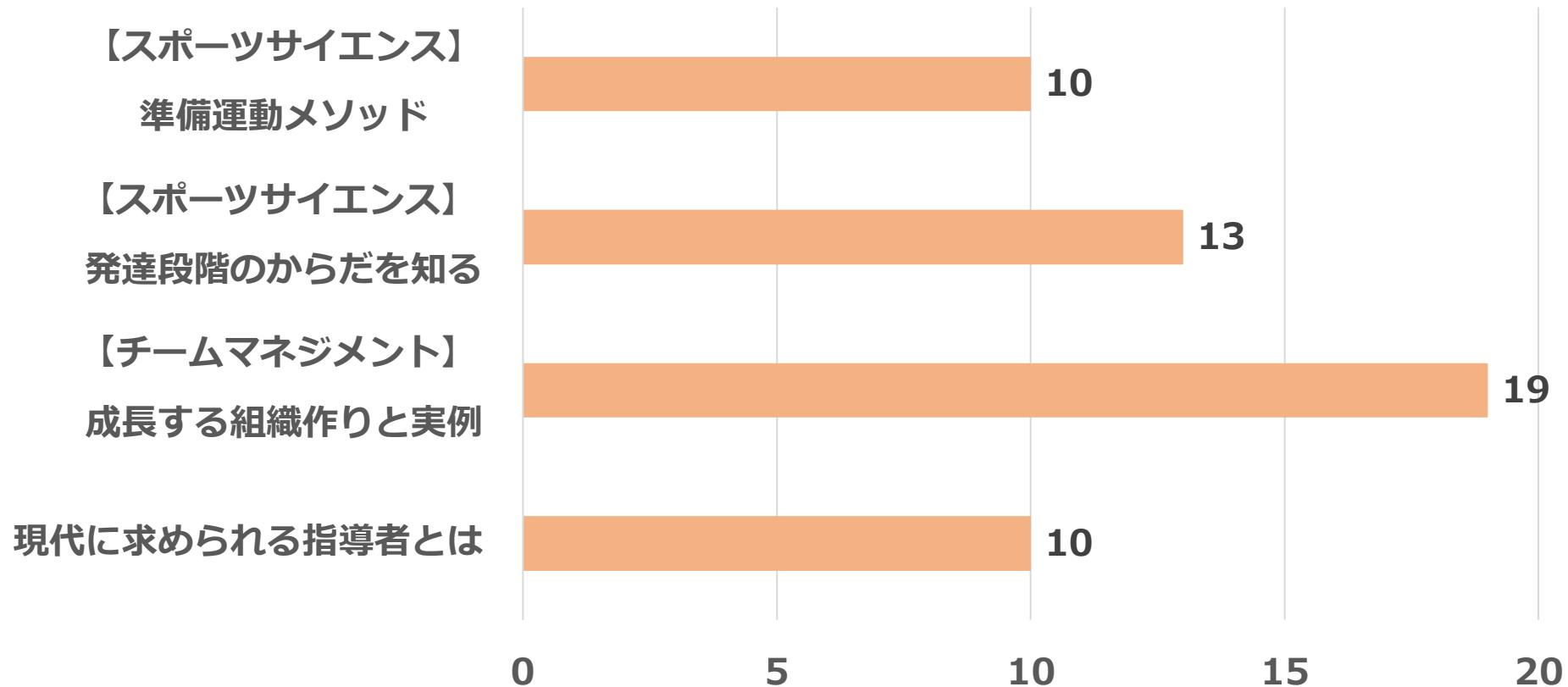


満足度（五段階）とその理由

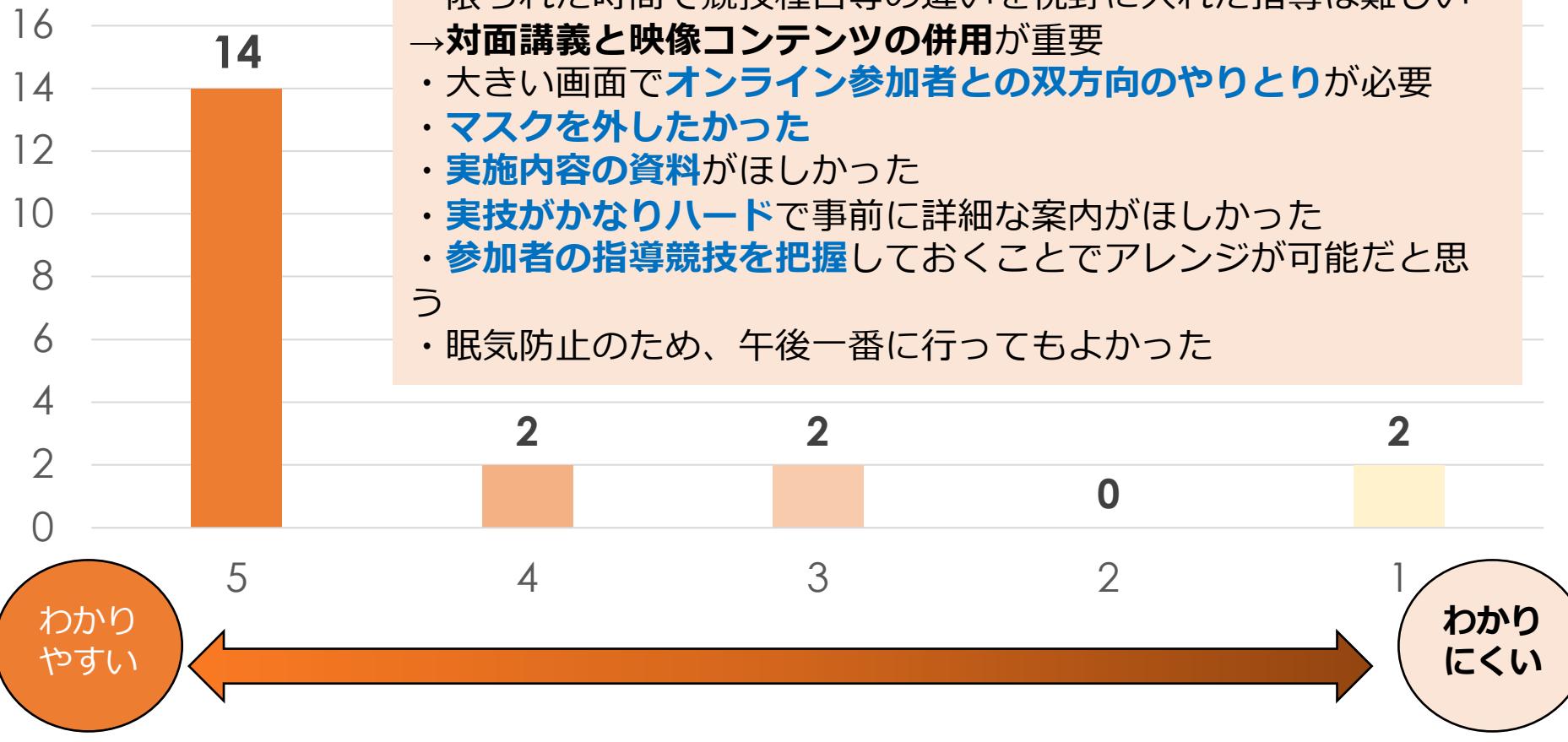
「満足した」以上が約95%
(20/21)



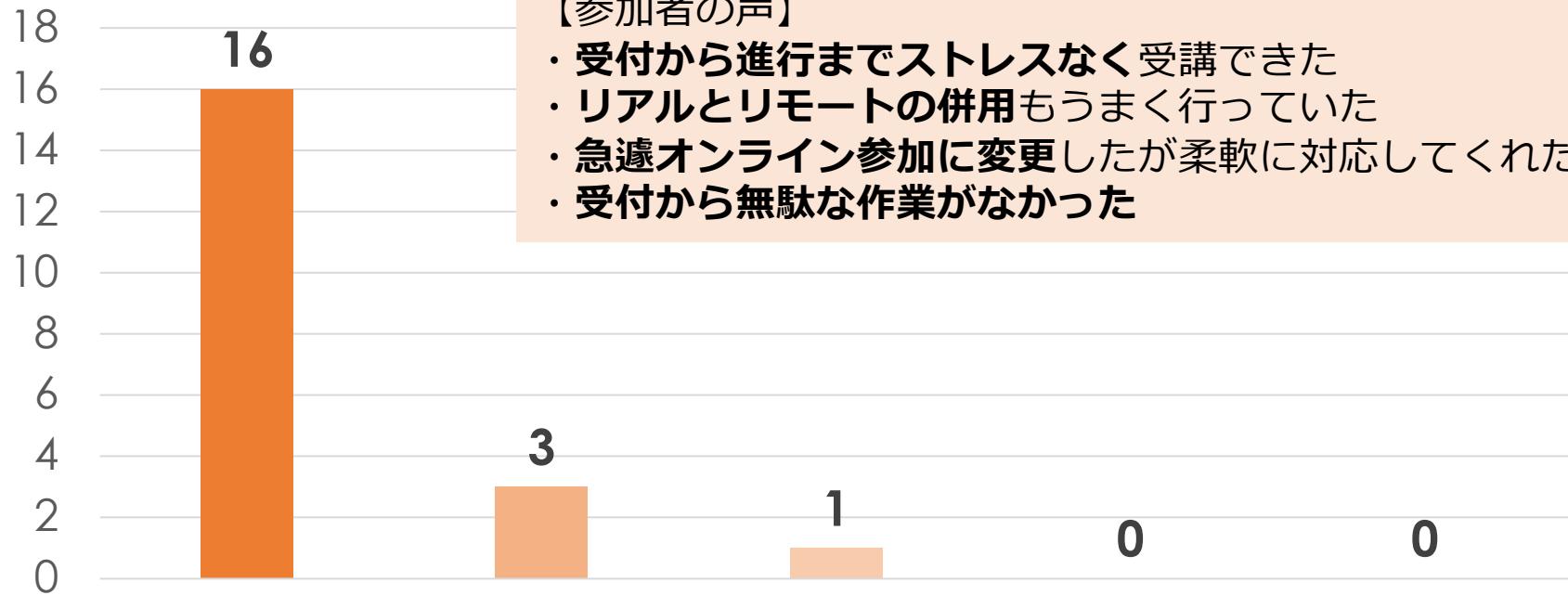
学びとなった講義はどれか（複数回答可）



実技指導はわかりやすかったか

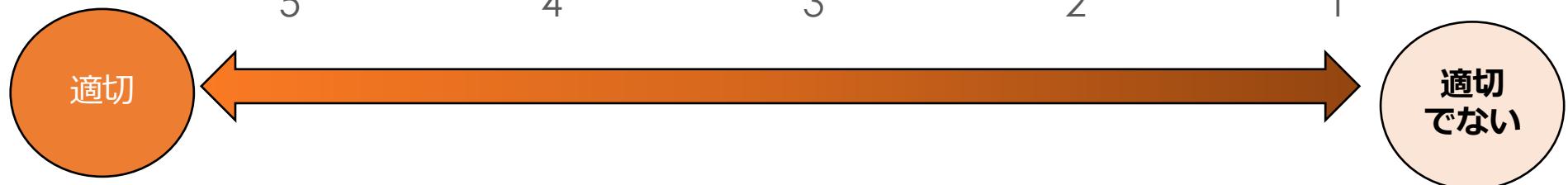


運営は適切だったか

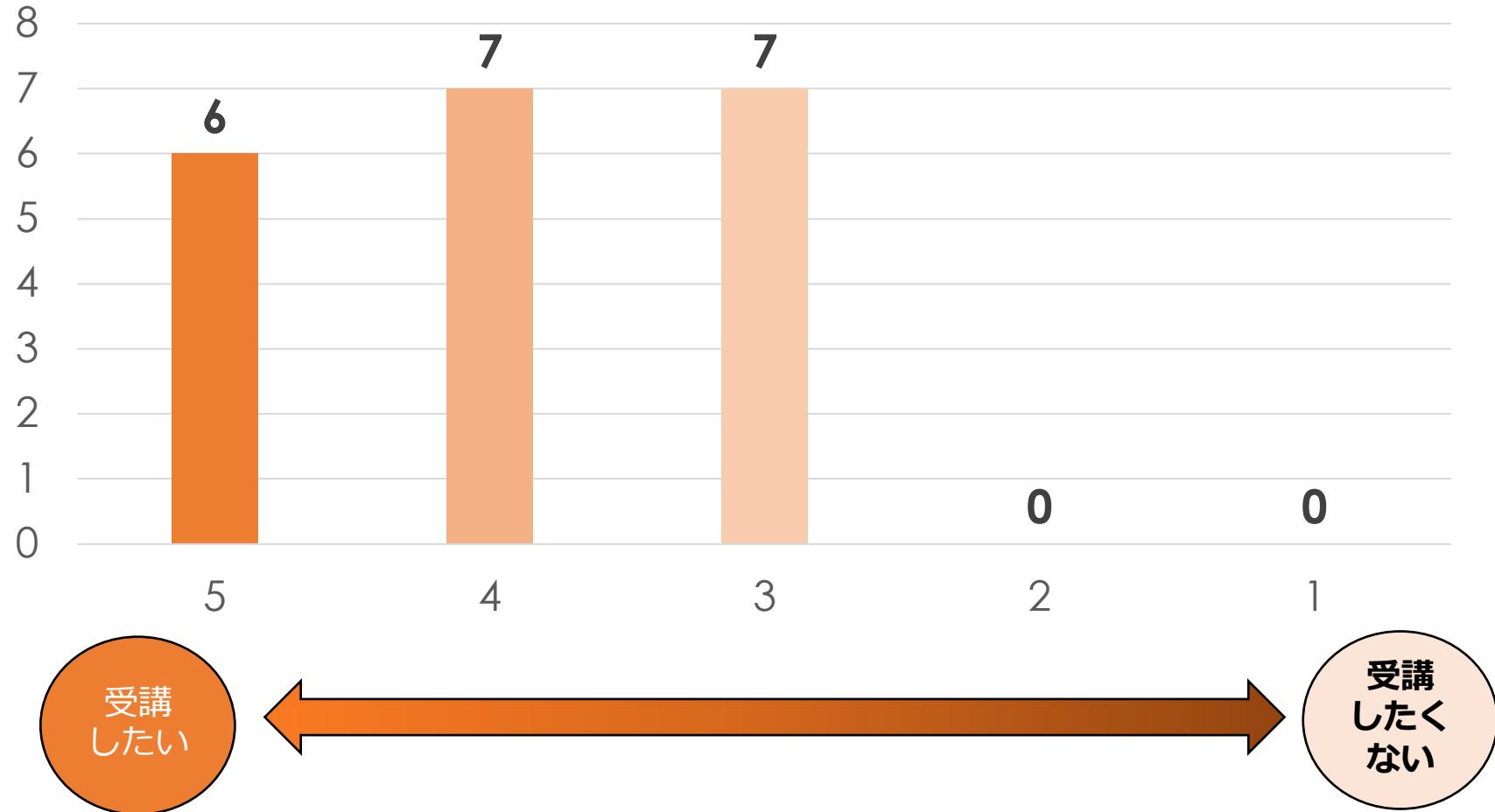


【参加者の声】

- ・受付から進行までストレスなく受講できた
- ・リアルとリモートの併用もうまく行っていた
- ・急遽オンライン参加に変更したが柔軟に対応してくれた
- ・受付から無駄な作業がなかった



(今後開催される) 正式な講座を受講したいか



今後の講座で取り上げて欲しい内容は

- ・食事や飲料の摂り方
- ・栄養学
- ・試合前のコンディションの整え方
- ・競技ごとの効果的なストレッチやトレーニング
- ・インナーマッスル
- ・栄養やメンタル、リーダーシップ等、総合的なプログラム
(プレーヤーズ・センタードの体制のため)
- ・スポーツクラブの組織そのものの創り方
- ・スポーツにおけるウェルビーイング
- ・公立学校の現状と目指すべきゴール

トレーニングや
コンディショニング
について

社会課題の解決
に向けて

自由記載コメント

- ・行政としてどのような活用ができるか今後検討したい
- ・地域課題解決のために大学の力を注いでいただけることはありがたい。様々な分野で今日のような取り組みが広がってほしい
- ・地域スポーツに係る課題に多く直面しており、何かしらの形で連携していきたい
- ・スポーツ学部のない青山学院だからこそその多角的な考え方には感銘を受けた
- ・今回学んだことをひとつ的方法としてこれからも勉強していきたい
- ・資格を取得したいと感じた
- ・意識の高い指導者の方々との自己紹介や交流が深められるといい
- ・合宿形式だけでなく、全5回程度で平日夜に渋谷／相模原での通学プログラムも検討してほしい
- ・参加者の温度差をなくしてほしい
- ・費用面と様々な団体から要望があった際のキャパシティが気になった
- ・指導者だけでなく、コーディネーター人材や保護者など他の関係者が知るべき内容も多い。対象の変更も検討していただきたい。

まとめ

- ・**実践的な内容**であったこと、**成果を残している講師**の講義であつたこと、**わかりやすい内容**だったことから**満足度は高い**
- ・趣旨が理解できたと感じている参加者も多く、**大学が地域課題解決に向けた取り組みを実施**していることへは肯定的
- ・運営面も配信との**ハイブリッドでの開催**だったが**ストレスなく受講**していただく事ができた。オンライン開催やハイブリッド開催により、多くの方の参加が見込めるのではないか。
- ・行政は実例がないことや距離の問題もあり、実施に躊躇しているため、今回の内容をもとに**具体的なパッケージ化**が必要

オンラインシンポジウム「これからのスポーツ指導者に求められるものとは」（1）

オンラインシンポジウムのご案内

青山学院大学主催シンポジウム
「これからのスポーツ指導者に求められるものとは」

2023年1月21日(土) 13:00～
青山学院大学青山キャンパスよりオンライン配信

青山学院大学はキャンパスがある渋谷区、相模原市及び関係団体と連携し、大学スポーツによる地域課題解決の実証事業である「これからの社会を担う新たなスポーツ指導者育成システム開発」プロジェクト（通称：CASプロジェクト）を開始しており、その一環として本シンポジウムを企画した。時代とともにスポーツに求められる役割は大きく変わってきており、従って、その指導者に求められる能力・技術や理念・考え方もまた変わらざるを得ない。今回のシンポジウムでは部活の地域移行に伴い、求められるこれからの発育世代のスポーツ指導者像をそれぞれの立場から提言していただき討論する。

テーマ：「発育世代を対象としたスポーツ指導者のあり方について」

対象：スポーツ・健康関連団体関係者、学校関係者、企業、行政組織等
主催：青山学院大学

本事業はスポーツ庁及びUNIVASの委託事業である「令和4年度大学スポーツ資源を活用した地域振興モデル創出支援事業」によるものです

PROGRAM プログラム

開会挨拶
講演
■ 青山学院大学 副学長 稲積宏誠
■ 「部活動の地域移行についての最新の情報」スポーツ序（登壇者調整中）
■ 「現代に求められるスポーツ指導者とは」（ビデオ収録）
■ 「中学校教育の現場から」
一般社団法人 渋谷ユナイテッド 代表理事 豊岡 弘敏／東京女子体育大学・東京女子体育短期大学教授
■ 「サッカー指導の現場から」
サッカー指導者（日本サッカー協会公認コーチライセンス保有） 鈴木 順

パネルディスカッション
「信頼されるスポーツ指導者とは」
進行役 青山学院大学 非常勤講師 長井延裕
パネリスト 豊岡 弘敏、鈴木 順、原田 俊一郎（株式会社フォーハンズ取締役）他

オンライン参加申し込み先：e-mail: aguscp@si.aoyama.ac.jp
氏名、ご所属をご記入の上、上記までお申し込みください。折り返し参加URLをお送りします



概要

時代と共にスポーツに求められる役割は大きく変わっており、従って指導者に求められる能力・技術や理念・考え方もまた変わらざるを得ない。本シンポジウムでは部活の地域移行のタイミングで大きな変化があるであろう「これからのスポーツ指導者」をそれぞれの立場から提言していただき討論する。

1月 21 日（土）13:00～15:00

青山学院大学主催オンラインシンポジウム

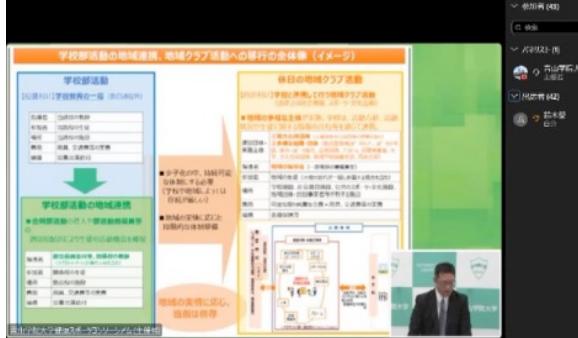
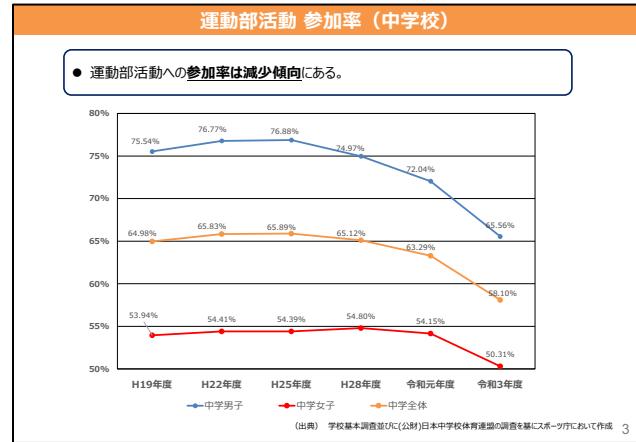
「これからのスポーツ指導者に求められるものとは」

- 13:00-13:05 開会挨拶 青山学院大学 副学長 稲積宏誠
- 13:05-13:25 「部活動の地域移行についての最新の情報」
スポーツ序 地域スポーツ課 課長補佐 鴨志田 晓弘
- 13:25-13:45 「現代に求められるスポーツ指導者とは」（ビデオ）
青山学院大学地球社会共生学部 教授／陸上競技部長距離ブロック監督 原 晋
- 13:45-14:05 「中学校教育の現場から」
一般社団法人 渋谷ユナイテッド 代表理事 豊岡 弘敏
- 14:05-14:20 「サッカー指導の現場から」
サッカー指導者（日本サッカー協会公認コーチライセンス保有） 鈴木 順
- パネルディスカッション 14:30-
<進行役>
長井 延裕 青山学院大学 非常勤講師
<パネリスト>
鴨志田 晓弘 スポーツ序 地域スポーツ課 課長補佐
豊岡 弘敏 一般社団法人 渋谷ユナイテッド 代表理事
鈴木 順 サッカー指導者
原田俊一郎（株）フォーハンズ 執行役員

オンラインシンポジウム「これからのスポーツ指導者に求められるものとは」（2）



開会挨拶 稲積宏誠 副学長



スポーツ庁 鴨志田 晓弘氏

学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方等に関する総合的なガイドライン抜粋 (1)

(出典) 学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方等に関する総合的なガイドラインP15-18

①. 指導者の質の保障

【地域スポーツクラブ活動】

- ア 都道府県及び市町村は、生徒にとってみえやすい地域スポーツ環境を整備するため、各地域において、専門性や資質・能力を有する指導者を確保する。また、スポーツ団体等は、生徒の多様ニーズに応えられる指導者の養成や育成向上の取組を進める。
- イ JSPOは、より多くの指導者が自己公認スポーツ指導者資格取得を目指すような制度設計に取り組む。その際、指導技術の指導や生徒の安全・健康面の配慮など、生徒への適切な指導等の在り方の確立、競争・魅力・行き届いた指導、ハラスマント等の行動も根柢とする。
- ウ 公益財団法人日本スポーツ協会及び各競技団体は、障害者スポーツ指導資格の取得を促進するとともに、研修機会を充実する。
- エ 指導者は、スポーツに精通したスポーツドクターや資質のトレーナー等と緊密に連携するなど、生徒を安全・健康管理等の面で支える。
- オ スポーツ団体等は、指導者に専門的知識などを行動が見られた場合への対応について、自ら設ける相談窓口のほか、JSPO等の統括団体が運営する相談窓口を利用し、公平・公正に対応する。都道府県や市町村などスポーツ団体等は別の第三者が相談を受け付け、各競技団体等と連携しながら対応する仕組みなど必要に応じて検討する。

②. 適切な指導の実施

【地域クラブ活動の運営団体・実施主体は、I.2.（1）※4に準じ、参加者の心身の健康管理、事故防止を徹底し、体罰・ハラスマントを根絶する。】

- ア 地域クラブ活動の運営団体・実施主体は、I.2.（1）※4に準じ、参加者の心身の健康管理、事故防止を徹底し、体罰・ハラスマントを根絶する。】
- イ 指導者は、I.2.（1）に準じ、生徒の十分なコミュニケーションを図つつ、適切な教義、適度の練習の実施や合理的かつ効率的・効果的な練習の積極的な導入を行なう。また、専門的知見を有する保健体育担当の教師や医療教諭等の協力を得て、医療の個人差や女子の成長期における体との状態等に応じる正しい知識を修得する。
- ウ 地域クラブ活動の運営団体・実施主体は、I.2.（2）ア※2の指導手引を活用して、指導を行う。

※3 I.2.（1）…学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方等に関する総合的なガイドライン（令和4年12月）JP8
※4 I.2.（2）ア…「学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方等に関する総合的なガイドライン（令和4年12月）JP9

稻積副学長の開会挨拶に続き、スポーツ庁鴨志田氏より、人口減少、中学校の運動部活動参加率の減少等の現状と部活動の地域移行の経緯についての説明があった。その中で、部活動の地域移行の理由においては「教師の負担軽減」が取り上げられがちだが、生徒数減少による部活動存続維持困難の中で、部活動の本来の意義である「文化・スポーツ芸術活動に親しむ」環境を整えるためということも強調しておきたいと述べた。

また、運動部活動の地域移行にあたっては、スポーツ庁から日本スポーツ協会（JSPO）に「指導者の質の保障や量の確保、大会の在り方の見直し等を要請したこと、但し地域移行にあたっては市区町村毎の実情に合わせてた独自の移行計画が求められること、さらに指導者についても教員を含めさまざまな人材の可能性があるとの見解が示された。

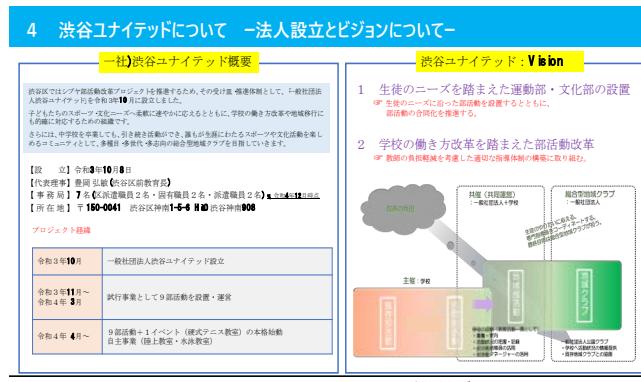
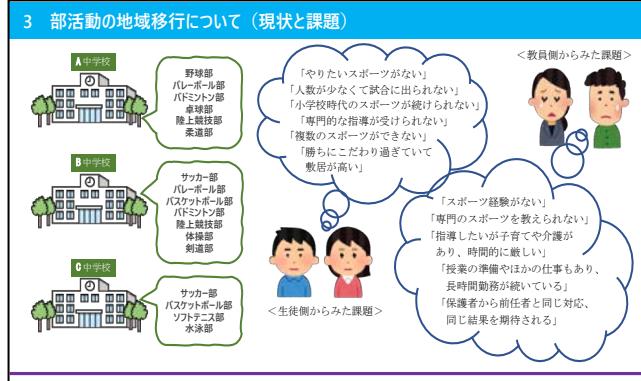
オンラインシンポジウム「これからのスポーツ指導者に求められるものとは」（3）



青山学院大学教授・陸上競技部長距離
ブロック監督 原 晋教授（ビデオ収
録）



一般社団法人 渋谷ユナイテッド
代表理事 豊岡弘敏氏



続いて、1月15日に実施された研修会での原教授による「現代に求められる指導者とは」の収録編集動画視聴を行った（前章参照）後、渋谷区で部活動改革プロジェクトを推進するために設立された一般社団法人渋谷ユナイテッドの豊岡代表理事より、渋谷区における部活動の地域移行の現状と課題と、その課題解決のために渋谷ユナイテッドが果たすべき役割と現状の活動についての説明があった。その中で、一学年生徒数が少ない渋谷区において、学校の枠を越えた部活動の技術指導を第一線級のアスリートの協力のもとに行い始めていること、学校の教員は指導・管理はせず、出欠やけがの対応等に関わる部活動マネージャを配置していること等の紹介があった。さらに、部活動を通した豊かな人間形成という本来の意義を、地域移行によっても継続することが重要であることが強調された。

オンラインシンポジウム「これからのスポーツ指導者に求められるものとは」（3）



サッカー指導者 鈴木 順氏



パネルディスカッション風景

Jリーグチームのフロントスタッフを務めた経験があり、現在もボランティアとしてクラブチームのサッカー指導者を務める鈴木順氏は、学年や学校を越えたチームでの交流の有用性を述べた。また、それをボランタリーベースで指導する現在の指導者の基盤の脆弱性や不安について言及した。これまでの演者によって述べられた部活の教育的意義については何らかの形で学ぶ機会を設けるべきと述べた。また、部活の地域移行については、「こどもたちが活躍できるな場を作る」という地域の気運が大事であると指摘した。

続いて、3名の演者に、年少者のスポーツ教室の運営等を行っている株式会社フォーハンズ執行役員の原田俊一郎氏を加え、長井延裕非常勤講師の進行のもとパネルディスカッションを行った。冒頭に今回のテーマである「信頼されるスポーツ指導者」は誰に信頼されなければならないのか、という進行役からの問いかけに、教わるこどもたちはもちろん、保護者の信頼が重要であるというコンセンサスが得られた。そして、そのような指導者の要件として、「場づくりのできる人」「押し付けない」「待ってる人=見守れる人」、「技術指導ができなくても、モチベーター（=やる気を起こさせる人」、「スポーツを考えながらやってきた人」等、さまざまな意見が出されたが、いずれにしろ、このような指導者として求められる要件を何らかの形で研修することは必要であり、その求められる要件については今後も議論を重ねていくということで閉会となった。

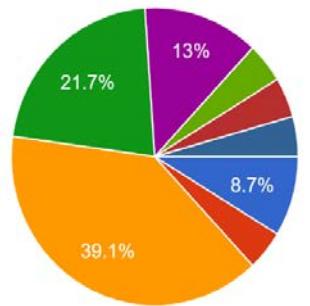
シンポジウムの収録動画は
右のQRコードから視聴できます



「これからのスポーツ指導者に求められるものとは」 アンケート結果 : 参加者属性と満足度

ご職業を以下より選択ください

23 件の回答



- 中高教員
- 自治体職員
- 大学教職員
- スポーツ団体関係者
- スポーツクラブ等指導者
- スポーツ・教育関連企業
- 学生
- 教職員

▲ 1/2 ▼

参加者の約4割が大学教職員

参加者属性

今回のシンポジウムはどのくらい満足されましたか。

23 件の回答

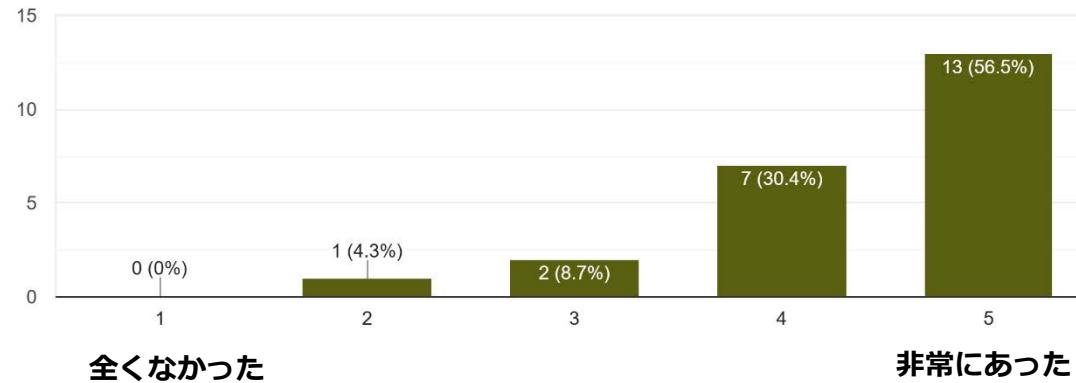
「満足した」以上が80%以上



「本シンポジウムは仕事に役立ったか」、「記憶に残ったフレーズは何か」

ご自分の仕事との関連性や、仕事に役立つ部分はありましたか。

23件の回答



「役立った」以上が85%

全くなかった

非常にあった

マニュアルを作りすぎると画一的な人材を育成することになる

スポーツを考えながら取り組んでいた方はセカンドキャリアが成功している。この考えて取り組むことができる方が必要

部活動の地域移行は、子どものスポーツ権、子どものニーズを第一に。その次が教員の負担軽減、働き方改革である

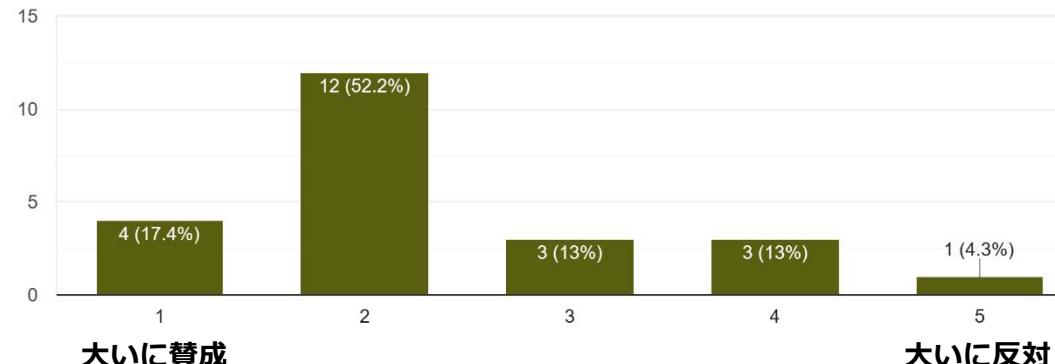
スポーツが苦手な子どもにこそスポーツを楽しんでほしい
全ての人が地域住民であり、全ての人が「自分ごと」として考
える必要がある

一発学習と チャレンジ学習

「部活の地域移行には賛成か」その理由は

部活の地域移行については賛成でしょうか。反対でしょうか

23件の回答



部活の中でも指導者がいない状況もあるので、地域移行により子供達の学ぶ姿勢がもっと活性化され向上心が芽生えるはず

地域が子供たちを育てるというコミュニティスクールの中で、重要な役割を担うと考える

児童生徒が活動したい部活がなかったり、専門性の乏しい指導者の存在で部活への意欲が低下する生徒が多いから

先生方の負担を軽減する事ができ、地域愛が生まれ大学生など、色々な人が関わる事により素晴らしい環境になると思う

都市部と地方とでは、指導者の数や質、環境面での格差が大きいので、人口減少が進む地方でこそ地域移行を進める必要がある

20年以上中学校という現場で部活動の指導をしているが、そろそろ指導にも制限が増え、一教員では運営・指導の継続に限界を感じているから

所属する地域で取り組み始めているが、担当機関が明確になっていないから

地域主導で学校でのアイデンティが無くなるのが心配

移行の方向性には賛成だが、現状の国の方針には疑問

指導者への謝礼、場所の確保等の課題もあり、この点については、政府、自治体による支援が無ければ、なかなか推進できないと思う

今後のシンポジウムで取り上げて欲しいテーマは

部活動の効率の良い指導法

効率的な部活動運営

部活動の受け皿としての活動の実践事例

スポーツ選手の環境改善について

自主性と主体性の違いと実例

自主性の育て方

部活動に熱心に取り組んでいる学生のキャリア形成について

プロフェッショナルな学生を育成するには

障がい者スポーツのDX

指導者に求められるもの
PART2

各地域での取り組み事例の紹介、指導者に求められる適正など

「スポーツ健康イノベーションコンソーシアム」の取組事例や、大学スポーツと地域が連携した取組について

IV-3 広報事業

ホームページ作成

青山学院大学
スポーツ健康イノベーションコンソーシアム

HOME 規約 会員 コンソーシアム紹介動画

UNIVAS 大学スポーツ資源を活用した地域振興モデル創出支援事業

これからの社会を担う
スポーツ指導者育成システム開発
—CASプロジェクト—



UNIVAS支援事業に採択された青山学院大学CASプロジェクト

UNIVAS（一般社団法人大学スポーツ協会）は、「大学スポーツの振興」と「大学スポーツによる地域振興」とを総合的に支援する「感動する大学スポーツ総合支援事業」を推進しています。

青山学院大学の「これからの社会を担うスポーツ指導者育成システム開発」（通称：CASプロジェクト）は、2020年度に続き2022年度も「大学スポーツ資源を活用した地域振興モデル創出支援事業」に採択されました。

CASプロジェクトは、キャンパスがある渋谷区、相模原市等の自治体と連携し、大学スポーツによる地域課題解決の実証事業として推進していきます。

（※CAS=Community Activator with Sports）



左のHPはこのQRコードから

事業紹介動画作成



今後の研修事業を円滑に進めるために本事業全体の紹介動画、研修風景動画、事業プロモーション動画の4本を作成した